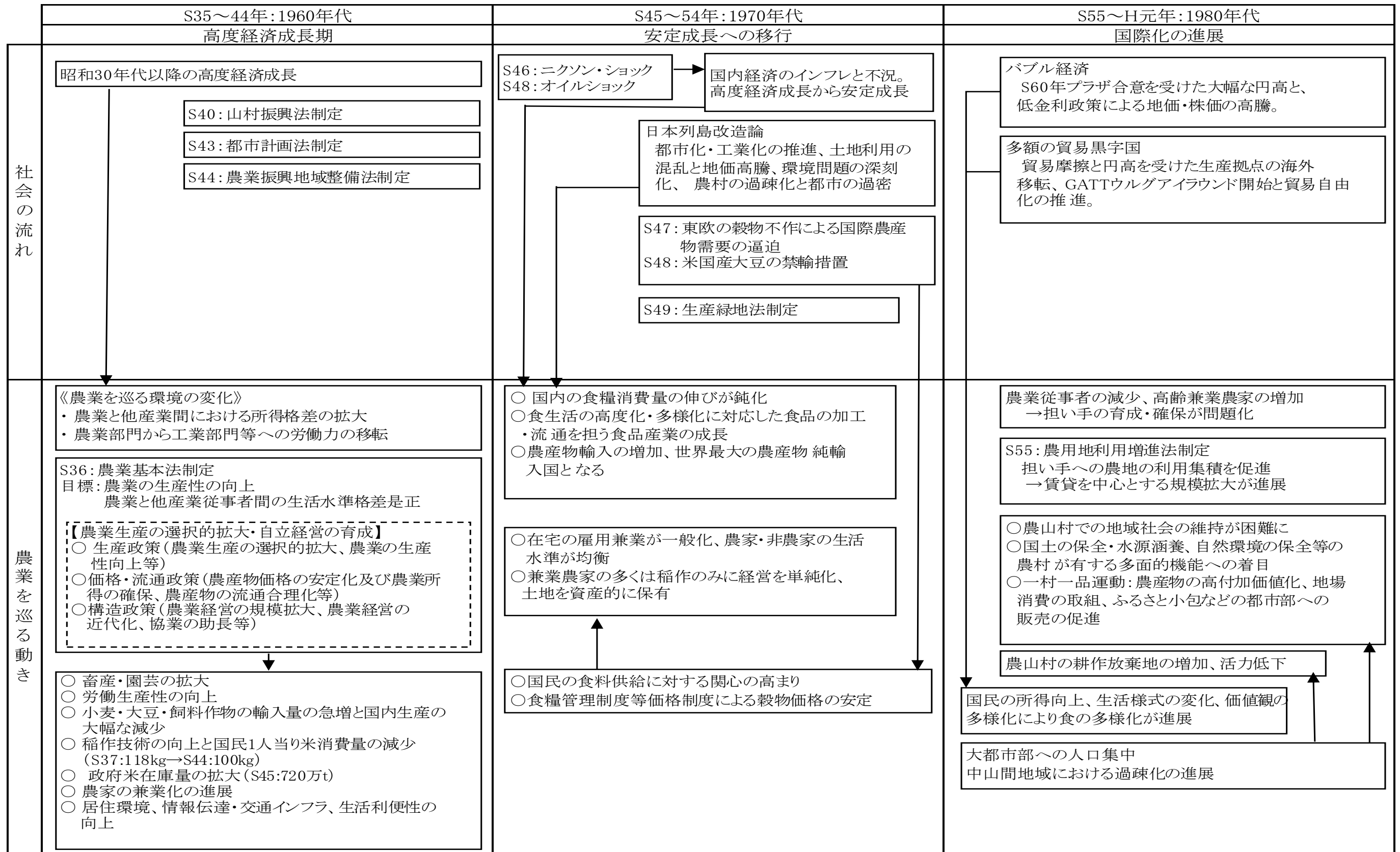


7 参考資料

(1) 農業を巡る近年の動き



	H2～H11年:1990年代 新たな国際体制での食料・農業・農村政策の展開	H12～現在 格差社会の進展と人口減社会の到来
社会の流れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東西ドイツの統一とソ連の崩壊</li> <li>○H3年のバブル崩壊・不良債権問題と失われた10年 →冷戦体制終結・情報通信技術の発達による経済社会のボーダレス化、デフレ</li> </ul>	H14～H16のいざなぎ景気とH19の世界同時不況 H13以降のゼロ金利政策と外需主導の実感無き長期好景気とデフレの継続、米国サブプライムローンに端を発する世界同時不況、円高の進展
	H7 :WTO農業合意。包括関税化の実施、農業保護の削減、輸出補助金の削減 H11:EUでのアジェンダ2000、共通農業政策の合意。	小泉内閣: 聖域無き構造改革 郵政事業と道路関係四公団の民営化、労働者派遣法等の規制緩和
	H4:新しい食料・農業・農村政策の方向 他産業並みの年間労働時間と生涯所得の実現、農地の効率的利用、法人化の推進、環境保全への配慮、中山間地域の取り組み	政権の交代 H21: 民主党を主とした連立政権に交代 H24: 自民党を主とした連立政権に交代
	H11: 食料・農業・農村基本法の制定	中国、インドの経済成長
	H10: 21世紀のグランドデザイン策定(新しい全国総合開発計画) 農山漁村を「21世紀の新たな生活様式を可能とするフロンティア」と位置づけ、「多自然居住地域」を創造することを提案	・戸別所得補償制度 ・TPP参加をめぐる世論の対立
農業を巡る動き	中山間地域での過疎化の進展、少子高齢化の進行	H14:「食」と「農」の再生プラン
	<b>【農業環境】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○経営感覚に優れた効率的・安定的経営体の育成</li> <li>○職業として農業を見直す動き。新規就農青年者も回復傾向にあり、H10年には年間で1万人以上になる。</li> <li>○バイオテクノロジー等の研究成果や情報通信技術の導入</li> <li>○グリーンツーリズムを初めとする都市農村交流の活発化</li> </ul>	消費者の食の安全・安心への信頼が揺らぐ H12: 低脂肪乳の集団食中毒事件 H13: 国内で初のBSE確認、屠殺牛の全頭検査 H19: 中国製冷凍餃子中毒事件 H23: 東京電力福島第一発電所原発事故
	表示・規制制度の充実 国民の食生活: 食料供給が量的及び質的に充足し、健康や安全性への関心が高まる。	直売所の展開と地産地消への関心の高まり
	H11: 日本農林規格改正 生鮮食品の産地表示の義務化、遺伝子組み換え食品の表示義務化と、有機食品の第三者認証制度の確立	H15: 食品安全基本法の制定と食品安全委員会の設置 H15: 食品衛生法の改正。農薬ポジティブリストへの移行
		H19: 品目横断的経営安定対策  H19: 農山漁村活性化法 H19: 地域資源活用促進法 H20: 農商工等連携促進法 H22: 六次産業化法 農林漁業生産と加工・販売の一体化、地域資源を活用した新産業の創出促進

## (2) 周辺の市との比較

### ① 農家数

- ・ 農家数は減少傾向にあり、平成22年時点では405戸になっています。
- ・ 周辺の市と比較すると、平成7年から22年までの間における農家数の減少の割合は比較的少ない状況にあります。

	平成7年 (戸)	平成12年 (戸)	平成17年 (戸)	平成22年 (戸)	増減				
					H7/H12	H12/H17	H17/H22	H7/H22	
東葛 地域	鎌ヶ谷市	533	478	436	405	0.897	0.912	0.929	0.760
	市川市	827	716	619	533	0.866	0.865	0.861	0.644
	船橋市	1544	1355	1174	1,067	0.878	0.866	0.909	0.691
	松戸市	1237	1040	906	843	0.841	0.871	0.930	0.681
	野田市	1780	1309	2256	2,096	0.735	1.723	0.929	1.178
	柏市	1463	1271	1169	1,682	0.869	0.920	1.439	1.150
	流山市	928	827	790	706	0.891	0.955	0.894	0.761
	我孫子市	852	794	743	657	0.932	0.936	0.884	0.771
	関宿町	1191	1063	※野田市と合併		0.893	—	—	—
	沼南町	917	796	※柏市と合併		0.868	—	—	—
東葛飾地域全体	11,272	9,649	8,093	7,989	0.856	0.839	0.987	0.709	

※増減は平成7年を1.000とした場合の値

出典：各年農林業センサス

### ② 農家人口

- ・ 農家人口は年々減少傾向にあり、平成22年時点で1,492人になっています。
- ・ 周辺の市と比較すると、平成7年から22年までの間における農家人口の減少の割合は比較的少ない状況にあります。

	平成7年 (人)	平成12年 (人)	平成17年 (人)	平成22年 (人)	増減				
					H7/H12	H12/H17	H17/H22	H7/H22	
東葛 地域	鎌ヶ谷市	2,703	2,334	1,734	1,492	0.863	0.743	0.860	0.552
	市川市	4,101	2,674	2,093	1,757	0.652	0.783	0.839	0.428
	船橋市	7,515	5,665	4,561	3,883	0.754	0.805	0.851	0.517
	松戸市	6,147	4,233	3,521	2,936	0.689	0.832	0.834	0.478
	野田市	8,474	4,104	6,467	4,963	0.484	1.576	0.767	0.586
	柏市	7,168	4,455	3,381	4,962	0.622	0.759	1.468	0.692
	流山市	4,389	2,768	2,100	1,540	0.631	0.759	0.733	0.351
	我孫子市	4,145	3,354	2,910	2,287	0.809	0.868	0.786	0.552
	関宿町	6,087	4,480	※野田市と合併		0.736	—	—	—
	沼南町	4,544	3,453	※柏市と合併		0.760	—	—	—
東葛飾地域全体	55,273	37,520	26,767	23,820	0.679	0.713	0.890	0.431	

※増減は平成7年を1.000とした場合の値

出典：各年農林業センサス

### ③年齢別世帯人員数（販売農家）

- 東葛飾地域全体の総数において29歳以下の割合が最も多く、次いで70歳以上の割合が多い状況にあります。本市においても同様ですが、29歳以下の割合は東葛飾地域を上回っており、70歳以上の割合は下回っています。

【総数】		計	29歳以下	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上	
東葛飾地域	鎌ヶ谷市	人数(人)	1,492	376	175	150	236	226	329
		割合(%)	100.0%	25.2%	11.7%	10.1%	15.8%	15.1%	22.1%
	市川市	人数(人)	1,757	454	208	187	238	251	419
		割合(%)	100.0%	25.8%	11.8%	10.6%	13.5%	14.3%	23.8%
	船橋市	人数(人)	3,883	1,016	357	466	605	511	928
		割合(%)	100.0%	26.2%	9.2%	12.0%	15.6%	13.2%	23.9%
	松戸市	人数(人)	2,936	736	295	310	441	466	688
		割合(%)	100.0%	25.1%	10.0%	10.6%	15.0%	15.9%	23.4%
	野田市	人数(人)	4,963	1,129	449	539	771	810	1,265
		割合(%)	100.0%	22.7%	9.0%	10.9%	15.5%	16.3%	25.5%
	柏市	人数(人)	4,962	1,234	479	520	789	739	1,201
		割合(%)	100.0%	24.9%	9.7%	10.5%	15.9%	14.9%	24.2%
	流山市	人数(人)	1,540	351	129	158	235	245	422
		割合(%)	100.0%	22.8%	8.4%	10.3%	15.3%	15.9%	27.4%
	我孫子市	人数(人)	2,287	557	192	228	408	348	554
		割合(%)	100.0%	24.4%	8.4%	10.0%	17.8%	15.2%	24.2%
	東葛飾地域全体	人数(人)	23,820	5,853	2,284	2,558	3,723	3,596	5,806
		割合(%)	100.0%	24.6%	9.6%	10.7%	15.6%	15.1%	24.4%

【男】		計	29歳以下	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上	
東葛飾地域	鎌ヶ谷市	人数(人)	753	196	102	73	125	121	136
		割合(%)	100.0%	26.0%	13.5%	9.7%	16.6%	16.1%	18.1%
	市川市	人数(人)	858	223	111	86	115	140	183
		割合(%)	100.0%	26.0%	12.9%	10.0%	13.4%	16.3%	21.3%
	船橋市	人数(人)	1,957	528	195	234	314	259	427
		割合(%)	100.0%	27.0%	10.0%	12.0%	16.0%	13.2%	21.8%
	松戸市	人数(人)	1,448	372	158	156	225	243	294
		割合(%)	100.0%	25.7%	10.9%	10.8%	15.5%	16.8%	20.3%
	野田市	人数(人)	2,484	581	254	286	378	426	559
		割合(%)	100.0%	23.4%	10.2%	11.5%	15.2%	17.1%	22.5%
	柏市	人数(人)	2,466	641	262	255	404	375	529
		割合(%)	100.0%	26.0%	10.6%	10.3%	16.4%	15.2%	21.5%
	流山市	人数(人)	742	172	65	87	115	126	177
		割合(%)	100.0%	23.2%	8.8%	11.7%	15.5%	17.0%	23.9%
	我孫子市	人数(人)	1,115	271	117	112	209	180	226
		割合(%)	100.0%	24.3%	10.5%	10.0%	18.7%	16.1%	20.3%
	東葛飾地域全体	人数(人)	11,823	2,984	1,264	1,289	1,885	1,870	2,531
		割合(%)	100.0%	25.2%	10.7%	10.9%	15.9%	15.8%	21.4%

【女】		計	29歳以下	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上	
東葛飾地域	鎌ヶ谷市	人数(人)	739	180	73	77	111	105	193
		割合(%)	100.0%	24.4%	9.9%	10.4%	15.0%	14.2%	26.1%
	市川市	人数(人)	899	231	97	101	123	111	236
		割合(%)	100.0%	25.7%	10.8%	11.2%	13.7%	12.3%	26.3%
	船橋市	人数(人)	1,926	488	162	232	291	252	501
		割合(%)	100.0%	25.3%	8.4%	12.0%	15.1%	13.1%	26.0%
	松戸市	人数(人)	1,488	364	137	154	216	223	394
		割合(%)	100.0%	24.5%	9.2%	10.3%	14.5%	15.0%	26.5%
	野田市	人数(人)	2,479	548	195	253	393	384	706
		割合(%)	100.0%	22.1%	7.9%	10.2%	15.9%	15.5%	28.5%
	柏市	人数(人)	2,496	593	217	265	385	364	672
		割合(%)	100.0%	23.8%	8.7%	10.6%	15.4%	14.6%	26.9%
	流山市	人数(人)	798	179	64	71	120	119	245
		割合(%)	100.0%	22.4%	8.0%	8.9%	15.0%	14.9%	30.7%
	我孫子市	人数(人)	1,172	286	75	116	199	168	328
		割合(%)	100.0%	24.4%	6.4%	9.9%	17.0%	14.3%	28.0%
	東葛飾地域全体	人数(人)	11,997	2,869	1,020	1,269	1,838	1,726	3,275
		割合(%)	100.0%	23.9%	8.5%	10.6%	15.3%	14.4%	27.3%

出典：2010年農林業センサス

#### ④経営耕地面積別農家数

- ・ 本市における経営耕地面積別農家数を見ると、「0.5～1.0ha」が108戸で32.0%を占めて一番多く、次いで「1.0～1.5ha」が99戸で29.3%、「1.5～2.0ha」が51戸で15.1%となっています。
- ・ 周辺の市と比較すると、「0.3～0.5ha」の農家が占める割合が少ない状況にあり、「1.0～1.5ha」の農家が多い状況にあります。

【総数】		計	販売農家									自給的農家	
			小計	経営耕地なし	0.3ha未満	0.3～0.5	0.5～1.0	1.0～1.5	1.5～2.0	2.0～3.0	3.0ha以上		
東葛地域	鎌ヶ谷市	農家数(戸)	338	334	-	6	31	108	99	51	33	6	4
		割合(%)	100.0%	98.8%	-	1.8%	9.2%	32.0%	29.3%	15.1%	9.8%	1.8%	1.2%
	市川市	農家数(戸)	403	391	2	15	71	132	88	44	31	8	12
		割合(%)	100.0%	97.0%	0.5%	3.7%	17.6%	32.8%	21.8%	10.9%	7.7%	2.0%	3.0%
	船橋市	農家数(戸)	864	847	-	15	89	299	234	109	74	27	17
		割合(%)	100.0%	98.0%	-	1.7%	10.3%	34.6%	27.1%	12.6%	8.6%	3.1%	2.0%
	松戸市	農家数(戸)	663	649	2	13	105	285	138	62	36	8	14
		割合(%)	100.0%	97.9%	0.3%	2.0%	15.8%	43.0%	20.8%	9.4%	5.4%	1.2%	2.1%
	野田市	農家数(戸)	1,219	1,199	4	19	222	480	252	95	68	59	20
		割合(%)	100.0%	98.4%	0.3%	1.6%	18.2%	39.4%	20.7%	7.8%	5.6%	4.8%	1.6%
	柏市	農家数(戸)	1,138	1,126	3	15	139	352	238	134	145	100	12
		割合(%)	100.0%	98.9%	0.3%	1.3%	12.2%	30.9%	20.9%	11.8%	12.7%	8.8%	1.1%
	流山市	農家数(戸)	379	371	1	14	103	146	57	27	15	8	8
		割合(%)	100.0%	97.9%	0.3%	3.7%	27.2%	38.5%	15.0%	7.1%	4.0%	2.1%	2.1%
	我孫子市	農家数(戸)	554	550	1	1	57	136	125	97	79	54	4
		割合(%)	100.0%	99.3%	0.2%	0.2%	10.3%	24.5%	22.6%	17.5%	14.3%	9.7%	0.7%
東葛飾地域全体		農家数(戸)	5,558	5,467	13	98	817	1,938	1,231	619	481	270	91
		割合(%)	100.0%	98.4%	0.2%	1.8%	14.7%	34.9%	22.1%	11.1%	8.7%	4.9%	1.6%

出典：2010年農林業センサス

#### ⑤借入耕地面積別農家数

- ・ 本市における借入耕地のある農家数とその面積を見ると、借入耕地が有る農家は51戸で、市内の総農家数の12.6%を占めています。また、1件当たりの面積は0.3haです。
- ・ 周辺の市と比べると、総農家数に占める借入耕地のある農家数の割合及び1件当たりの面積は市川市に次いで少なくなっています。

	総農家数	計			販売農家			自給的農家			
		借入耕地のある農家数(件)	面積(ha)	1件当たりの面積(ha)	農家数(件)	面積(ha)	1件当たりの面積(ha)	農家数(件)	面積(ha)	1件当たりの面積(ha)	
東葛地域	鎌ヶ谷市	405	51	15	0.3	50	15	0.3	1	0	0.0
		100.0%	12.6%	-	-	12.3%	-	-	0.2%	-	-
	市川市	533	64	14	0.2	59	14	0.2	5	0	0.0
		100.0%	12.0%	-	-	11.1%	-	-	0.9%	-	-
	船橋市	1,067	151	55	0.4	143	54	0.4	8	1	0.1
		100.0%	14.2%	-	-	13.4%	-	-	0.7%	-	-
	松戸市	843	107	40	0.4	106	39	0.4	1	1	1.0
		100.0%	12.7%	-	-	12.6%	-	-	0.1%	-	-
	野田市	2,096	392	427	1.1	357	423	1.2	35	4	0.1
		100.0%	18.7%	-	-	17.0%	-	-	1.7%	-	-
	柏市	1,169	309	333	1.1	292	331	1.1	17	2	0.1
		100.0%	26.4%	-	-	25.0%	-	-	1.5%	-	-
	流山市	790	103	38	0.4	85	37	0.4	18	1	0.1
		100.0%	13.0%	-	-	10.8%	-	-	2.3%	-	-
	我孫子市	743	123	164	1.3	117	163	1.4	6	1	0.2
		100.0%	16.6%	-	-	15.7%	-	-	0.8%	-	-
東葛飾地域全体		7,646	1,300	1,086	0.8	1,209	1,076	0.9	91	10	0.1
		100.0%	17.0%	-	-	15.8%	-	-	1.2%	-	-

出典：2010年農林業センサス

### ⑥経営耕地（販売農家）

- 本市における経営耕地の面積を見ると、樹園地が213haで54.6%と最も多く、次いで畑が165haで42.3%、田が12haで3.1%となっています。
- 周辺の市と比較すると、経営耕地総面積は流山市に次いで少ないですが、樹園地の面積は市川市に次いで多くなっています。

	経営耕地のある経営体数(経営体)	経営耕地総面積(ha)	1経営体当たり経営耕地面積(a)	田		畑(樹園地を除く。)		樹園地	
				田のある農家数(戸)	面積(ha)	畑のある農家数(戸)	面積(ha)	樹園地のある農家数(戸)	面積(ha)
東葛地域	鎌ヶ谷市	338	390	115	35	12	226	165	213
		100.0%	100.0%	—	10.4%	3.1%	66.9%	42.3%	54.6%
	市川市	401	407	102	50	15	225	107	263
		100.0%	100.0%	—	12.5%	3.7%	56.1%	26.3%	65.6%
	船橋市	862	1,002	116	369	165	801	637	183
		100.0%	100.0%	—	42.8%	16.5%	92.9%	63.6%	21.2%
	松戸市	660	634	96	202	115	602	437	112
		100.0%	100.0%	—	30.6%	18.1%	91.2%	68.9%	17.0%
	野田市	1,210	1,794	148	977	881	984	565	37
		100.0%	100.0%	—	80.7%	49.1%	81.3%	31.5%	3.1%
柏市	1,129	2,026	179	842	990	1,052	795	130	
	100.0%	100.0%	—	74.6%	48.9%	93.2%	39.2%	11.5%	
流山市	378	326	86	248	149	347	158	40	
	100.0%	100.0%	—	65.6%	45.7%	91.8%	48.5%	10.6%	
我孫子市	551	915	166	520	709	465	198	34	
	100.0%	100.0%	—	94.4%	77.5%	84.4%	21.6%	6.2%	
東葛飾地域全体	5,529	7,494	1,008	3,243	3,036	4,702	3,062	1,012	
	100.0%	100.0%	—	58.7%	40.5%	85.0%	40.9%	18.3%	

出典：2010年農林業センサス

### ⑦耕作放棄地面積別農家数

- 本市における耕作放棄地のある農家数とその面積を見ると、耕作放棄地が有る農家は83戸で、市内の総農家数の20.5%を占めています。また、非農家で耕作されていない土地を持つ家も57戸存在します。
- 周辺の市と比べると、総農家数に占める耕作放棄地のある農家数の割合は松戸市に次いで少なく、耕作放棄地の面積も市川市に次いで少ないです。また、非農家で耕作されていない土地を持つ家の戸数や面積は流山市に次いで少なくなっています。

	総農家数(戸)	総農家						土地持ち非農家	
		耕作放棄地のある農家		販売農家		自給的農家		非農家数(戸)	面積(ha)
		農家数(戸)	面積(ha)	農家数(戸)	面積(ha)	農家数(戸)	面積(ha)		
東葛地域	鎌ヶ谷市	405	83	46	57	18	26	7	57
		100.0%	20.5%	—	14.1%	—	6.4%	—	—
	市川市	533	112	45	72	14	40	7	88
		100.0%	21.0%	—	13.5%	—	7.5%	—	—
	船橋市	1,067	317	185	213	82	104	32	152
		100.0%	29.7%	—	20.0%	—	9.7%	—	—
	松戸市	843	121	81	77	20	44	11	161
		100.0%	14.4%	—	9.1%	—	5.2%	—	—
	野田市	2,096	946	531	405	129	541	173	759
		100.0%	45.1%	—	19.3%	—	25.8%	—	—
柏市	1,169	582	322	319	92	263	80	404	
	100.0%	49.8%	—	27.3%	—	22.5%	—	—	
流山市	790	278	76	138	36	140	30	37	
	100.0%	35.2%	—	17.5%	—	17.7%	—	—	
我孫子市	743	159	67	126	29	33	7	102	
	100.0%	21.4%	—	17.0%	—	4.4%	—	—	
東葛飾地域全体	7,646	2,598	1,353	1,407	420	1,191	347	1,760	
	100.0%	34.0%	—	18.4%	—	15.6%	—	—	

出典：2010年農林業センサス

⑧農産物販売金額規模別農家数（販売農家）

- 本市における農産物販売金額別農家数を見ると、「300～500万円」が71戸で21.3%と最も多く、次いで「700～1,000万円」が48戸で14.4%、「500～700万円」が44戸で13.2%となっています。1,000万円以上の農家は52戸で15.6%を占めています。
- 周辺の市と比較すると、300万未満の農家が占める割合は少なく、300～1,500万円の規模の農家の割合が多くなっています。

		計	販売なし	50万円未満	50	100	200	300	500	700	1,000	1,500	2,000	3,000	5,000万	1億円	3億円	5億円以上	
					～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～
東葛地域	鎌ヶ谷市	農家数(戸)	334	13	14	26	37	29	71	44	48	37	10	2	2	0	1	0	0
		割合(%)	100.0%	3.9%	4.2%	7.8%	11.1%	8.7%	21.3%	13.2%	14.4%	11.1%	3.0%	0.6%	0.6%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%
	市川市	農家数(戸)	391	19	32	47	34	45	55	51	43	39	12	9	4	1	0	0	0
		割合(%)	100.0%	4.9%	8.2%	12.0%	8.7%	11.5%	14.1%	13.0%	11.0%	10.0%	3.1%	2.3%	1.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	船橋市	農家数(戸)	847	45	73	65	93	110	145	100	99	72	26	9	9	1	0	0	0
		割合(%)	100.0%	5.3%	8.6%	7.7%	11.0%	13.0%	17.1%	11.8%	11.7%	8.5%	3.1%	1.1%	1.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	松戸市	農家数(戸)	649	46	77	69	73	73	99	68	73	51	13	6	1	0	0	0	0
		割合(%)	100.0%	7.1%	11.9%	10.6%	11.2%	11.2%	15.3%	10.5%	11.2%	7.9%	2.0%	0.9%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	野田市	農家数(戸)	1,199	199	303	198	135	96	87	46	43	36	15	15	19	6	0	1	0
		割合(%)	100.0%	16.6%	25.3%	16.5%	11.3%	8.0%	7.3%	3.8%	3.6%	3.0%	1.3%	1.3%	1.6%	0.5%	0.0%	0.1%	0.0%
	柏市	農家数(戸)	1,126	113	166	147	142	109	134	113	94	57	15	22	12	2	0	0	0
		割合(%)	100.0%	10.0%	14.7%	13.1%	12.6%	9.7%	11.9%	10.0%	8.3%	5.1%	1.3%	2.0%	1.1%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	流山市	農家数(戸)	371	56	87	60	64	40	29	13	12	8	1	0	1	0	0	0	0
		割合(%)	100.0%	15.1%	23.5%	16.2%	17.3%	10.8%	7.8%	3.5%	3.2%	2.2%	0.3%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	我孫子市	農家数(戸)	550	72	118	99	111	58	38	23	16	9	3	2	1	0	0	0	0
		割合(%)	100.0%	13.1%	21.5%	18.0%	20.2%	10.5%	6.9%	4.2%	2.9%	1.6%	0.5%	0.4%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	東葛飾地域全体	農家数(戸)	5,467	563	870	711	689	560	658	458	428	309	95	65	49	10	1	1	0
		割合(%)	100.0%	10.3%	15.9%	13.0%	12.6%	10.2%	12.0%	8.4%	7.8%	5.7%	1.7%	1.2%	0.9%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%

出典：2010年農林業センサス

⑨農業経営組織別農家数（販売農家）

- 本市における農業経営組織別農家数を見ると、販売のあった農家数のうち単一経営が264戸で82.2%と最も多く、そのうち果樹類が162戸で50.5%、露地野菜が86戸で26.8%を占めています。
- 周辺の市と比較すると、単一経営の農家が占める割合が市川市に次いで多く、そのうち果樹類が同じく市川市に次いで多くなっています。

		販売のあった農家数	単一経営															準単一複合経営	複合経営	
			計	稲作	麦類作	雑穀・いも類・豆類	工芸農作物	露地野菜	施設野菜	果樹類	花き・花木	その他の作物	酪農	肉用牛	養豚	養鶏	養蚕			その他の畜産
東葛地域	鎌ヶ谷市	農家数(戸)	321	264	0	0	0	86	10	162	3	0	2	1	0	0	0	2	10	
		割合(%)	100.0%	82.2%	0.0%	0.0%	0.0%	26.8%	3.1%	50.5%	0.9%	0.0%	0.6%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	3.1%
	市川市	農家数(戸)	372	328	1	0	0	78	12	228	9	0	0	0	0	0	0	0	1	11
		割合(%)	100.0%	88.2%	0.3%	0.0%	0.0%	21.0%	3.2%	61.3%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	3.0%
	船橋市	農家数(戸)	802	586	21	0	6	397	28	109	10	4	10	0	1	0	0	0	2	35
		割合(%)	100.0%	73.1%	2.6%	0.7%	0.7%	49.5%	3.5%	13.6%	1.2%	0.5%	1.2%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	4.4%
	松戸市	農家数(戸)	603	493	25	0	4	378	11	63	10	0	0	0	2	0	0	0	4	22
		割合(%)	100.0%	81.8%	4.1%	0.7%	0.7%	62.7%	1.8%	10.4%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	3.6%
	野田市	農家数(戸)	1,000	731	391	0	5	209	66	10	15	3	25	1	5	0	0	0	6	56
		割合(%)	100.0%	73.1%	39.1%	0.0%	0.5%	20.9%	6.6%	1.0%	1.5%	0.3%	2.5%	0.1%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	5.6%
	柏市	農家数(戸)	1,013	541	169	0	1	291	35	33	7	1	0	0	1	2	0	1	4	89
		割合(%)	100.0%	53.4%	16.7%	0.0%	0.1%	28.7%	3.5%	3.3%	0.7%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	0.2%	0.0%	0.1%	0.4%	8.8%
	流山市	農家数(戸)	315	184	49	0	2	117	2	11	2	1	0	0	0	0	0	0	1	41
		割合(%)	100.0%	58.4%	15.6%	0.0%	0.6%	37.1%	0.6%	3.5%	0.6%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	13.0%
	我孫子市	農家数(戸)	478	295	264	0	1	23	3	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	60
		割合(%)	100.0%	61.7%	55.2%	0.0%	0.2%	4.8%	0.6%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.6%
	東葛飾地域全体	農家数(戸)	4,911	3,427	921	0	19	1,581	167	618	57	9	37	2	12	0	1	20	324	
		割合(%)	100.0%	69.8%	18.7%	0.0%	0.4%	32.2%	3.4%	12.6%	1.2%	0.2%	0.8%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.4%	6.6%	

出典：2010年農林業センサス

⑩専兼業別農家数（販売農家）

- 本市における専兼業別農家数を見ると、専業農家が164戸で49.1%、兼業農家が170戸で50.9%を占めています。兼業農家のうち第1種が29.3%、第2種が21.6%を占めています。
- 周辺の市と比較すると、専業農家が占める割合が最も多く、兼業農家についても第1種が占める割合が最も多くなっています。

		計	専業農家			兼業農家			
			小計	男子生産年齢人口が いる	女子生産年齢人口が いる	小計	第1種兼業農家	第2種兼業農家	
東葛地域	鎌ヶ谷市	農家数(戸)	334	164	131	114	170	98	72
		割合(%)	100.0%	49.1%	39.2%	34.1%	50.9%	29.3%	21.6%
	市川市	農家数(戸)	391	165	115	104	226	96	130
		割合(%)	100.0%	42.2%	29.4%	26.6%	57.8%	24.6%	33.2%
	船橋市	農家数(戸)	847	348	280	240	499	236	263
		割合(%)	100.0%	41.1%	33.1%	28.3%	58.9%	27.9%	31.1%
	松戸市	農家数(戸)	649	255	191	171	394	161	233
		割合(%)	100.0%	39.3%	29.4%	26.3%	60.7%	24.8%	35.9%
	野田市	農家数(戸)	1,199	296	132	120	903	198	705
		割合(%)	100.0%	24.7%	11.0%	10.0%	75.3%	16.5%	58.8%
	柏市	農家数(戸)	1,126	343	230	198	783	280	503
		割合(%)	100.0%	30.5%	20.4%	17.6%	69.5%	24.9%	44.7%
	流山市	農家数(戸)	371	105	48	51	266	66	200
		割合(%)	100.0%	28.3%	12.9%	13.7%	71.7%	17.8%	53.9%
	我孫子市	農家数(戸)	550	105	43	45	445	110	335
		割合(%)	100.0%	19.1%	7.8%	8.2%	80.9%	20.0%	60.9%
東葛飾地域全体	農家数(戸)	5,475	1,784	1,172	1,045	3,691	1,247	2,444	
	割合(%)	100.0%	32.6%	21.4%	19.1%	67.4%	22.8%	44.6%	

出典：2010年農林業センサス

⑪主副業別農家数（販売農家）

- 本市における主副業別農家数を見ると、主業農家※が231戸で69.2%、準主業農家※が54戸で16.2%を占めています。
  - 周辺の市と比較すると、主業農家が占める割合が最も多くなっています。
- ※がついている用語は、参考資料の用語解説を参照。

		計	主業農家	65歳未満の 農業専従者 が いる	準主業農家	65歳未満の 農業専従者 が いる	副業的農家	
								東葛地域
		割合(%)	100.0%	69.2%	67.7%	16.2%	12.3%	14.7%
	市川市	農家数(戸)	391	212	198	85	64	94
		割合(%)	100.0%	54.2%	50.6%	21.7%	16.4%	24.0%
	船橋市	農家数(戸)	847	499	474	197	146	151
		割合(%)	100.0%	58.9%	56.0%	23.3%	17.2%	17.8%
	松戸市	農家数(戸)	649	346	328	142	93	161
		割合(%)	100.0%	53.3%	50.5%	21.9%	14.3%	24.8%
	野田市	農家数(戸)	1,199	270	242	266	137	663
		割合(%)	100.0%	22.5%	20.2%	22.2%	11.4%	55.3%
	柏市	農家数(戸)	1,126	464	426	295	148	367
		割合(%)	100.0%	41.2%	37.8%	26.2%	13.1%	32.6%
	流山市	農家数(戸)	371	102	90	92	53	177
		割合(%)	100.0%	27.5%	24.3%	24.8%	14.3%	47.7%
	我孫子市	農家数(戸)	550	129	112	155	70	266
		割合(%)	100.0%	23.5%	20.4%	28.2%	12.7%	48.4%
東葛飾地域全体	農家数(戸)	5,474	2,256	2,099	1,288	753	1,930	
	割合(%)	100.0%	41.2%	38.3%	23.5%	13.8%	35.3%	

出典：2010年農林業センサス



⑫年齢別農業経営者数（販売農家）

- ・ 本市の農業経営者を年齢で見ると、男女の平均が 55.9 歳、65 歳以上農業経営者は 105 人で 31.4%を占めています。
- ・ 周辺の市と比較すると、農業経営者の平均年齢及び 65 歳以上の農業経営者の割合は最も少なくなっています。

		平均年齢		
		男女計(歳)	男(歳)	女(歳)
東葛地域	鎌ヶ谷市	55.9	54.4	57.5
	市川市	57.1	55.9	58.4
	船橋市	57.0	55.8	58.5
	松戸市	58.2	56.8	59.6
	野田市	59.4	57.8	61.2
	柏市	58.8	56.7	61.2
	流山市	61.2	59.8	62.6
	我孫子市	57.3	55.8	59.0
東葛飾地域全体		59.2	57.5	61.0

出典：2010 年農林業センサス

			65歳以上の経営者
東葛地域	鎌ヶ谷市	人数(人)	105
		割合(%)	31.4%
	市川市	人数(人)	208
		割合(%)	53.2%
	船橋市	人数(人)	359
		割合(%)	42.4%
	松戸市	人数(人)	322
		割合(%)	49.6%
	野田市	人数(人)	574
		割合(%)	47.9%
	柏市	人数(人)	532
		割合(%)	47.2%
	流山市	人数(人)	226
		割合(%)	60.9%
	我孫子市	人数(人)	297
		割合(%)	54.0%
東葛飾地域全体		人数(人)	2,701
		割合(%)	48.4%

出典：2010 年農林業センサス

⑬農業生産関連事業を行っている農家数（販売農家）

- ・ 本市において農業生産関連事業を行っている農家数を事業種別に見ると、農業生産関連事業を行っている農家は 210 戸で 62.1%を占めています。そのうち、消費者に直売が 204 戸、観光農園が 17 戸となっています。
- ・ 周辺の市と比較すると、農業生産関連事業を行っている農家の割合は最も多くなっています。

		計	農業生産 関連事業 を行って いない 経営体数	農業生産 関連事業を 行っている 実経営体数	事業種別（複数回答）								
					農産物 の加工	消費者に 直接販売	貸農園・ 体験農園等	観光農園	農家民宿	農 家 レ ス ト ラ ン	海外への 輸 出	その他	
東葛地域	鎌ヶ谷市	農家数(戸)	338	128	210	6	204	7	17	0	0	0	1
		割合(%)	100.0%	37.9%	62.1%	1.8%	60.4%	2.1%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
	市川市	農家数(戸)	403	161	242	1	238	8	12	1	1	1	0
		割合(%)	100.0%	40.0%	60.0%	0.2%	59.1%	2.0%	3.0%	0.2%	0.2%	0.2%	0.0%
	船橋市	農家数(戸)	864	599	265	15	255	14	20	0	0	0	1
		割合(%)	100.0%	69.3%	30.7%	1.7%	29.5%	1.6%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
	松戸市	農家数(戸)	663	432	231	0	228	9	50	0	0	0	2
		割合(%)	100.0%	65.2%	34.8%	0.0%	34.4%	1.4%	7.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%
	野田市	農家数(戸)	1,219	956	263	6	252	6	5	0	0	0	8
		割合(%)	100.0%	78.4%	21.6%	0.5%	20.7%	0.5%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%
	柏市	農家数(戸)	1,138	708	430	35	415	16	7	0	2	0	2
		割合(%)	100.0%	62.2%	37.8%	3.1%	36.5%	1.4%	0.6%	0.0%	0.2%	0.0%	0.2%
	流山市	農家数(戸)	379	248	131	6	128	7	9	0	0	0	0
		割合(%)	100.0%	65.4%	34.6%	1.6%	33.8%	1.8%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	我孫子市	農家数(戸)	554	334	220	19	215	9	1	0	0	0	2
		割合(%)	100.0%	60.3%	39.7%	3.4%	38.8%	1.6%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%
東葛飾地域全体		農家数(戸)	5,565	3,570	1,995	88	1,938	76	121	1	3	1	16
		割合(%)	100.0%	64.2%	35.8%	1.6%	34.8%	1.4%	2.2%	0.0%	0.1%	0.0%	0.3%

出典：2010 年農林業センサス

### (3) 農業経営等に係るアンケート調査結果詳細

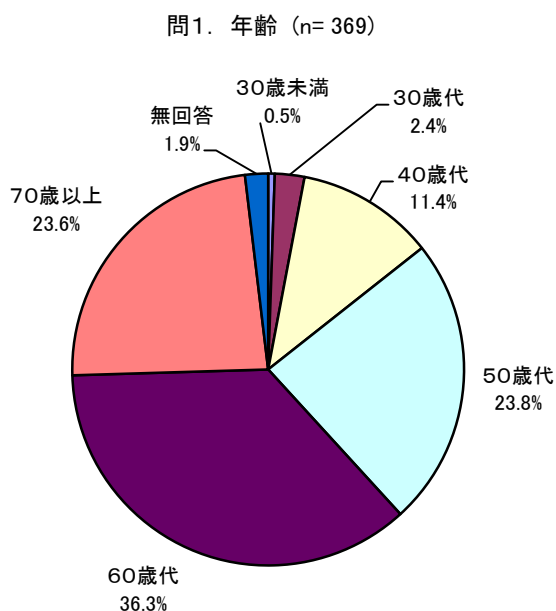
#### ①アンケート実施概要（再掲）

アンケート実施時期	平成 24 年 11 月
配布回収	農家実行組合を通じ配布回収、非組合員には郵送による配布回収
アンケート対象者数	488 件
有効回答数	369 件
有効回答率	75.6%

#### ②全体集計結果

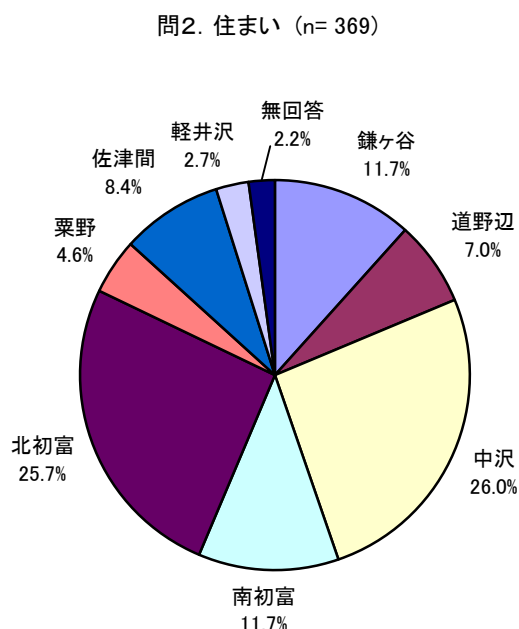
問1 あなたの年齢は、次のうちいずれに該当しますか？（1つだけ○）

	回答数	比率
30歳未満	2	0.5%
30歳代	9	2.4%
40歳代	42	11.4%
50歳代	88	23.8%
60歳代	134	36.3%
70歳以上	87	23.6%
無回答	7	1.9%
合計	369	100.0%



問2 あなたのお住まいは旧字名でどちらですか？（1つだけ○）

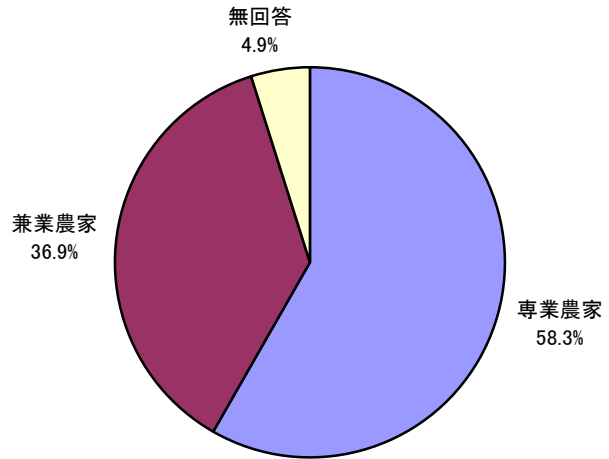
	回答数	比率
鎌ヶ谷	43	11.7%
道野辺	26	7.0%
中沢	96	26.0%
南初富	43	11.7%
北初富	95	25.7%
栗野	17	4.6%
佐津間	31	8.4%
軽井沢	10	2.7%
無回答	8	2.2%
合計	369	100.0%



問3 あなたは専業農家、兼業農家のいずれに該当しますか？（1つだけ○）

	回答数	比率
専業農家	215	58.3%
兼業農家	136	36.9%
無回答	18	4.9%
合計	369	100.0%

問3. 専業農家、兼業農家のいずれか (n= 369)



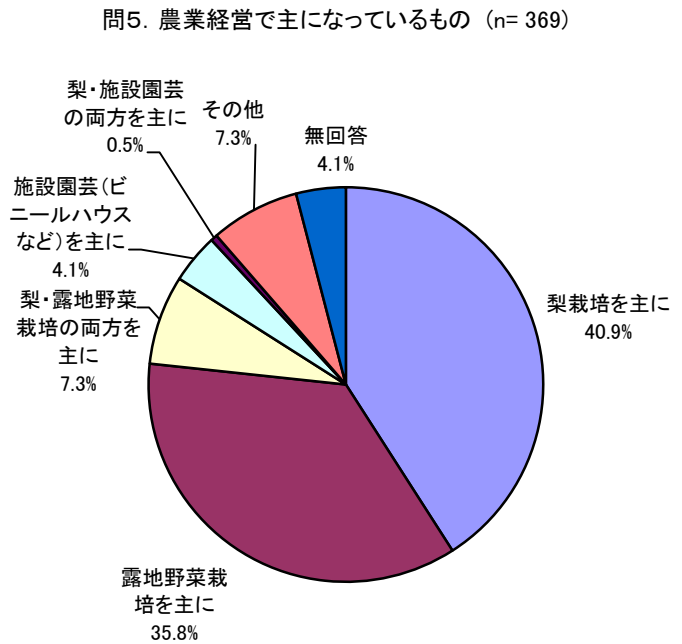
問4 世帯の中であなたを含め、農業従事者は男性と女性それぞれ何名ですか？（人数をご記入下さい）

	回答数	人数計	1件当たりの人数
男性	330	468	1.4
女性	319	413	1.3
無回答	11	—	—
全体	358	881	2.5

※1件当たりの人数は、人数計を回答数で割って算出した平均値である。

問5 あなたの農業経営で主になっているものは何ですか？（1つだけ○）

	回答数	比率
梨栽培を主に	151	40.9%
露地野菜栽培を主に	132	35.8%
梨・露地野菜栽培の両方を主に	27	7.3%
施設園芸(ビニールハウスなど)を主に	15	4.1%
梨・施設園芸の両方を主に	2	0.5%
その他	27	7.3%
無回答	15	4.1%
合計	369	100.0%



問6 現在の経営耕地面積等について、都市計画区域別・地目別にそれぞれ数字をご記入ください。（鎌ヶ谷市内に限ります）

	①市街化区域内			②市街化調整区域内			合計		
	回答数	面積計(a)	1件当たりの面積(a)	回答数	面積計(a)	1件当たりの面積(a)	回答数	面積計(a)	1件当たりの面積(a)
田	12	233.1	25.9	26	464.4	20.2	38	697.5	21.8
畑	123	5,515.5	46.0	143	7,928.8	55.8	266	13,444.4	51.3
樹園地	82	4,779.8	60.5	108	9,443.0	88.3	190	14,222.8	76.5
未耕作地	10	75.5	10.8	35	801.0	24.3	45	876.5	21.9
山林	13	161.3	16.1	27	629.0	25.2	40	790.3	22.6
全体	167	10,765.2	—	215	19,266.2	—	296	30,031.5	—

※1 件当たりの面積は、面積計を回答数（ただし面積無回答の人数を除く）で割って算出した平均値である。

問7 主な生産品目を3つまで、収穫面積の多い順にご記入ください。

※1 件当たりの面積は、面積計を回答数（ただし面積無回答の人数を除く）で割って算出した平均値である。

《1番目に多い品目》

品目	回答数	面積計(a)	1件当たりの面積(a)
梨	161	11,772.0	89.2
大根	49	3,751.5	89.3
ネギ	9	237.0	26.3
トマト	7	114.3	19.1
その他野菜	52	1,823.2	48.0
その他果樹	13	734.5	91.8
花き	3	160.0	53.3
無回答	75	—	—
合計	369	18,593	—

◇「その他野菜」の内訳

里芋、じゃが芋、かぶ、キャベツ、ほうれん草、枝豆、小松菜、ブロッコリー  
さつまいも 等

◇「その他果樹」の内訳

栗、いちご、ブルーベリー、ぶどう 等

《2番目に多い品目》

1番目が【梨】と回答した人

品目	回答数	面積計(a)	1件当たりの面積(a)
ぶどう	9	112.0	12.4
大根	5	360.0	72.0
ネギ	3	42.0	14.0
米	2	無回答	—
その他野菜	15	400.0	36.4
その他果樹	4	106.0	35.3
その他 (野菜か果樹 かは未回答)	2	20.0	10.0
合計	40	1,040.0	—

※「1番目の品目以外は生産していない」という回答者が **121名**

1番目が【大根】と回答した人

品目	回答数	面積計(a)	1件当たりの面積(a)
ニンジン	17	435.0	29.0
ネギ	11	290.0	29.0
かぶ	4	108.2	27.1
梨	4	200.0	50.0
その他野菜	7	165.0	33.0
合計	43	1,198	—

※「1番目の品目以外は生産していない」という回答者が **6名**

《3番目に多い品目》

1番目が【梨】と回答した人

品目	回答数	面積計(a)	1件当たりの面積(a)
野菜	7	85.0	12.1
果樹(桃)	1	10.0	10.0
その他 (野菜か果樹 かは未回答)	1	5.0	5.0
合計	9	100.0	—

※「1番目と2番目の品目以外は生産していない」という回答者が **31名**

1番目が【大根】と回答した人

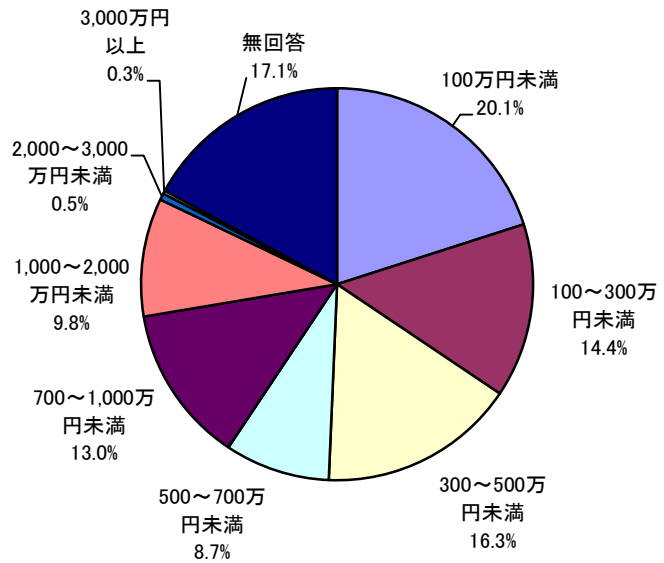
品目	回答数	面積計(a)	1件当たりの面積(a)
ニンジン	8	138.5	17.3
ネギ	7	125.0	20.8
その他野菜	12	225.1	22.5
果樹(梨)	1	50	50.0
合計	28	538.6	—

※「1番目と2番目の品目以外は生産していない」という回答者が **15名**

問8 あなたの世帯の、現在の農業での年間販売額ほどの程度ですか？（1つだけ○）

	回答数	比率
100万円未満	74	20.1%
100～300万円未満	53	14.4%
300～500万円未満	60	16.3%
500～700万円未満	32	8.7%
700～1,000万円未満	48	13.0%
1,000～2,000万円未満	36	9.8%
2,000～3,000万円未満	2	0.5%
3,000万円以上	1	0.3%
無回答	63	17.1%
合計	369	100.0%

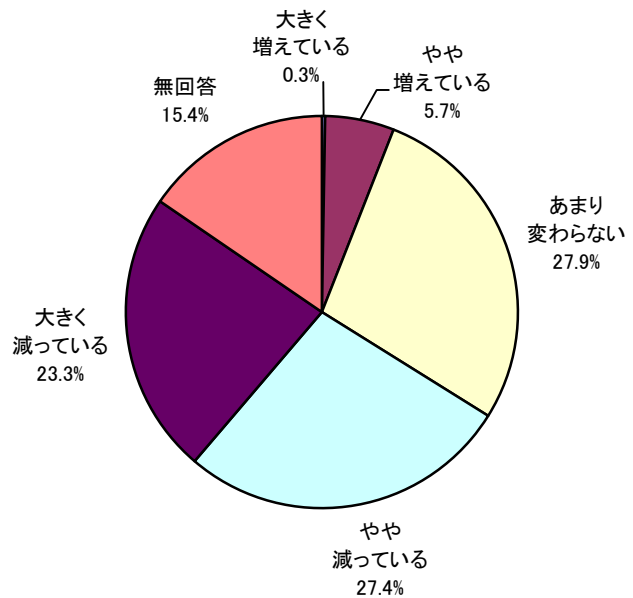
問8. 農業での年間販売額 (n= 369)



問9 5年前と比べて農業販売額は増えていますか、減っていますか？（1つだけ○）

	回答数	比率
大きく増えている	1	0.3%
やや増えている	21	5.7%
あまり変わらない	103	27.9%
やや減っている	101	27.4%
大きく減っている	86	23.3%
無回答	57	15.4%
合計	369	100.0%

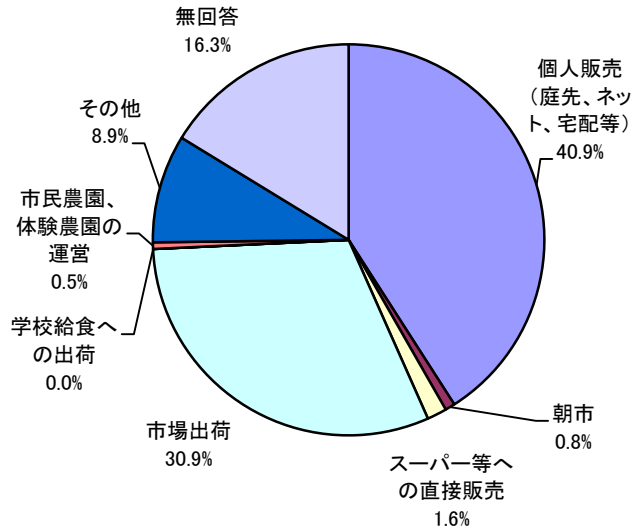
問9. 5年前と比べた農業販売額の増減 (n= 369)



問 10 現在の主な販売先（収入源）はどちらですか？（1つだけ○）

	回答数	比率
個人販売（庭先、ネット、宅配等）	151	40.9%
朝市	3	0.8%
スーパー等への直接販売	6	1.6%
市場出荷	114	30.9%
学校給食への出荷	0	0.0%
市民農園、体験農園の運営	2	0.5%
その他	33	8.9%
無回答	60	16.3%
合計	369	100.0%

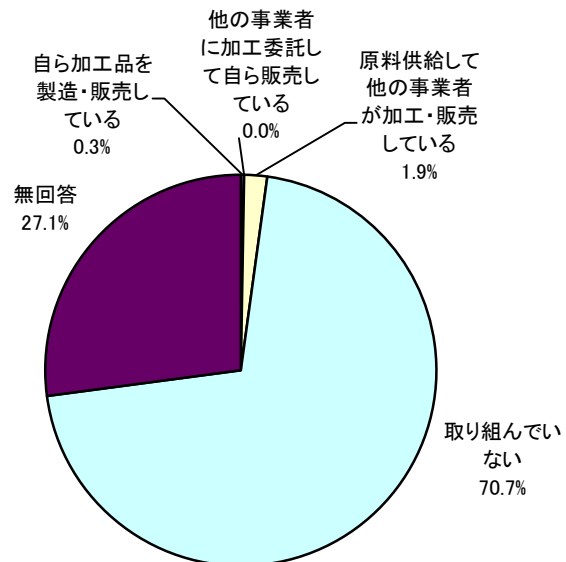
問10. 主な販売先 (n= 369)



問 11 現在、自分で生産した農産物を使って加工品を製造・販売していますか？（1つだけ○）

	回答数	比率
自ら加工品を製造・販売している	1	0.3%
加工委託して自ら販売している	0	0.0%
他の事業者が加工・販売している	7	1.9%
取り組んでいない	261	70.7%
無回答	100	27.1%
合計	369	100.0%

問11. 自分で生産した農産物を使って加工品を製造・販売しているか (n= 369)



◇「自ら製造・販売」の具体的な回答  
： 梅→梅干

◇「他の事業者が加工・販売」の具体的な回答  
： 梨→ワイン、洋菓子

問 12 鎌ヶ谷市で取り組んでいる、以下の主な事業についてお尋ねします。

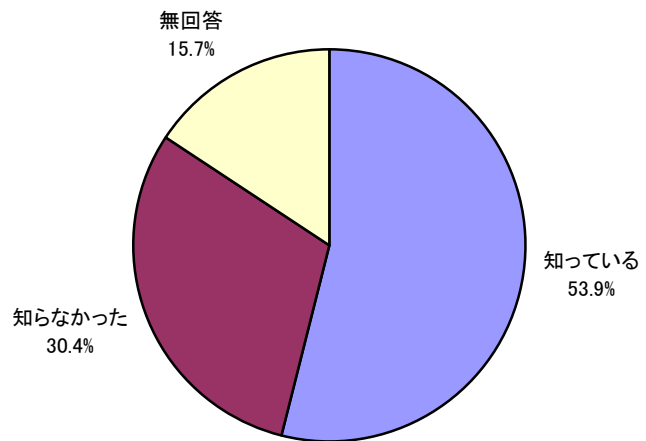
(1) 梨の剪定枝のリサイクル事業

①この事業についてご存知ですか？（1つだけ○）

②この事業を今後利用したいですか？（1つだけ○）

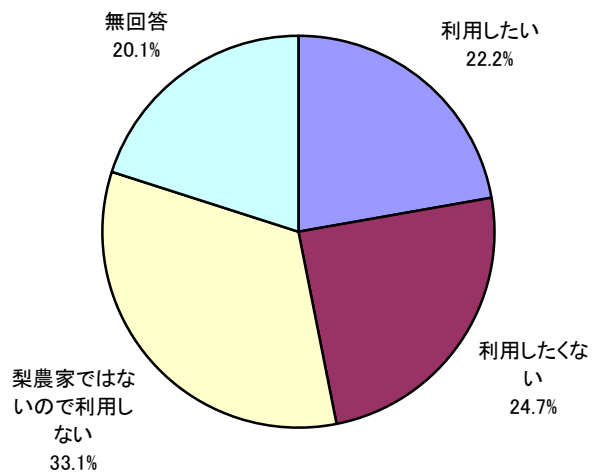
	回答数	比率
知っている	199	53.9%
知らなかった	112	30.4%
無回答	58	15.7%
合計	369	100.0%

問12. (1)-①梨の剪定枝のリサイクル事業について  
(n= 369)



	回答数	比率
利用したい	82	22.2%
利用したくない	91	24.7%
梨農家ではないので利用しない	122	33.1%
無回答	74	20.1%
合計	369	100.0%

問12. (1)-②この事業を今後利用したいか (n= 369)





問 12 鎌ヶ谷市で取り組んでいる、以下の主な事業についてお尋ねします。

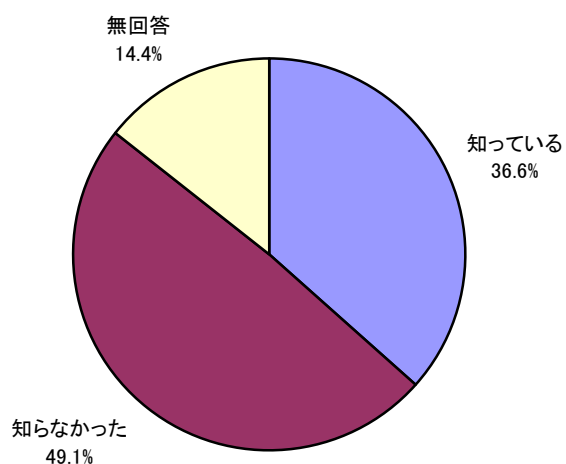
(2) ゆるキャラ (かまたん) を活用した農産物ブランドのPR事業

①この事業についてご存知ですか？ (1つだけ○)

②かまたんを今後直売所に呼びたいとお考えですか？ (1つだけ○)

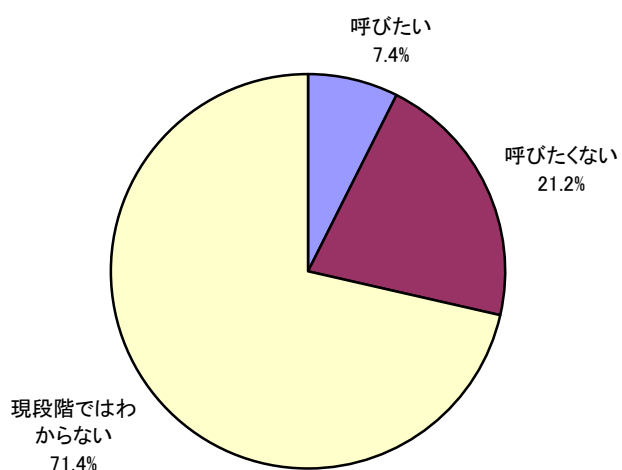
問12. (2)-①ゆるキャラ(かまたん)を活用した農産物ブランドのPR事業について (n= 369)

	回答数	比率
知っている	135	36.6%
知らなかった	181	49.1%
無回答	53	14.4%
合計	369	100.0%



	回答数	比率
呼びたい	14	7.4%
呼びたくない	40	21.2%
現段階ではわからない	135	71.4%
合計	189	100.0%

問12. (2)-②かまたんを今後直売所に呼びたいか (n= 180)



※自身で直売所を運営する人のみに質問。

問12 鎌ヶ谷市で取り組んでいる、以下の主な事業についてお尋ねします。

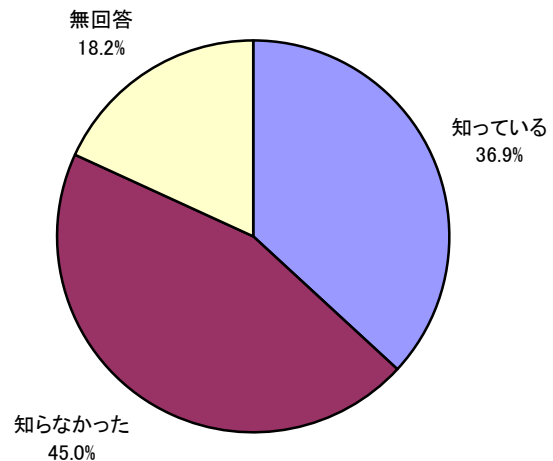
(3) 援農ボランティア制度

①この事業についてご存知ですか？ (1つだけ○)

②この事業を今後利用したいですか？ (1つだけ○)

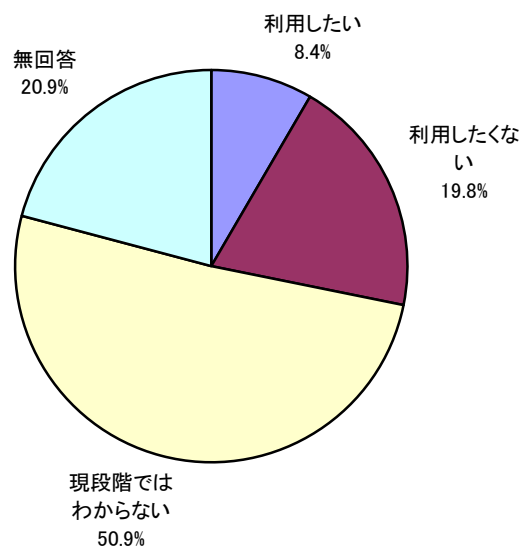
	回答数	比率
知っている	136	36.9%
知らなかった	166	45.0%
無回答	67	18.2%
合計	369	100.0%

問12. (3)-①援農ボランティア制度事業について  
(n= 369)



	回答数	比率
利用したい	31	8.4%
利用したくない	73	19.8%
現段階ではわからない	188	50.9%
無回答	77	20.9%
合計	369	100.0%

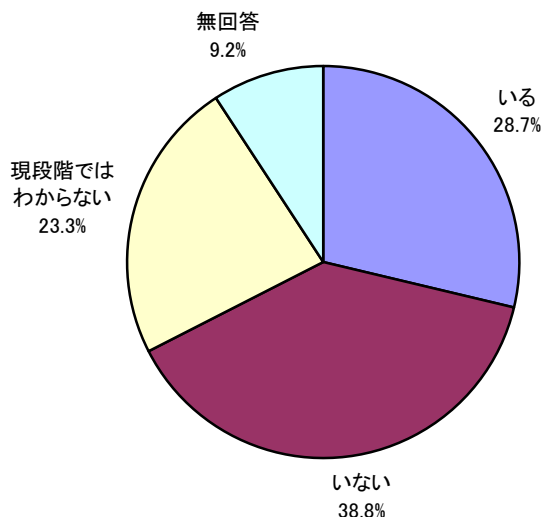
問12. (3)-②この事業を今後利用したいか (n= 369)



問 13 あなたの農業経営を引き継ぐ後継者はいますか？（1つだけ○）

	回答数	比率
いる	106	28.7%
いない	143	38.8%
現段階ではわからない	86	23.3%
無回答	34	9.2%
合計	369	100.0%

問13. 農業経営を引き継ぐ後継者はいるか (n= 369)

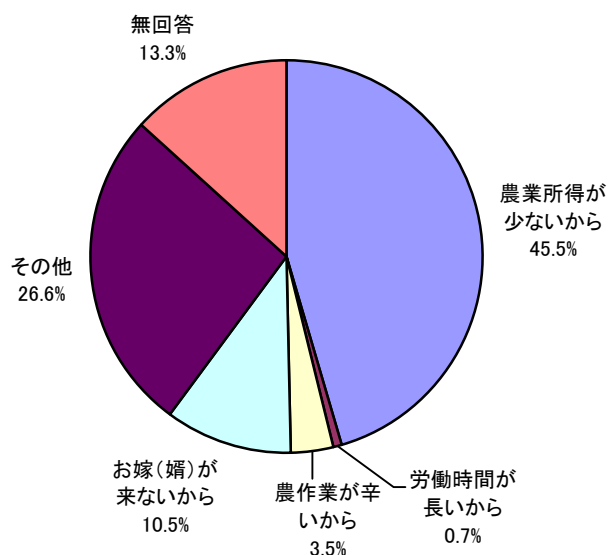


問 13-1 問 13 で「2 いない」と回答された理由は何ですか？（1つだけ○）

※問 13 で「2 いない」と回答した人のみに質問。

	回答数	比率
農業所得が少ないから	65	45.5%
労働時間が長いから	1	0.7%
農作業が辛いから	5	3.5%
お嫁(婿)が来ないから	15	10.5%
その他	38	26.6%
無回答	19	13.3%
合計	143	100.0%

問13-1. 後継者が「いない」と回答した理由 (n= 143)



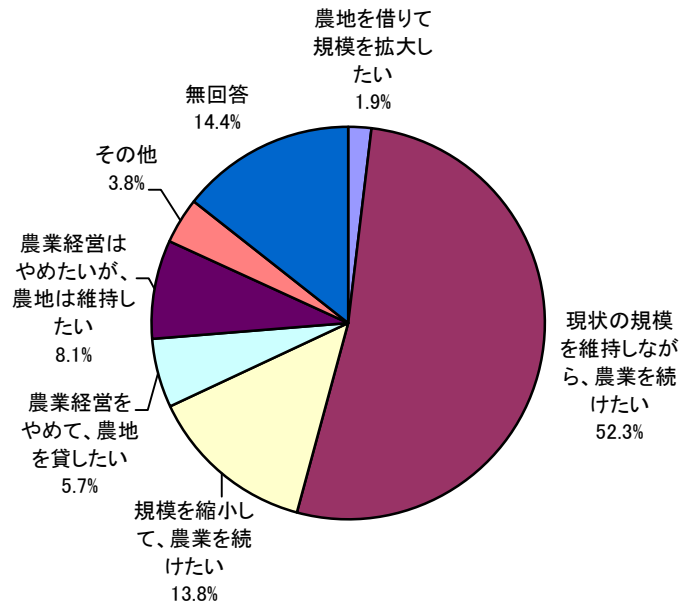
◇「その他」の具体的な回答

- ・子どもがいないから
- ・他の仕事に就いているから 等

問 14 今後の農業経営について、次のうちいずれに該当しますか？（1つだけ○）

	回答数	比率
農地を借りて規模を拡大したい	7	1.9%
現状の規模を維持しながら、農業を続けたい	193	52.3%
規模を縮小して、農業を続けたい	51	13.8%
農業経営をやめて、農地を貸したい	21	5.7%
農業経営はやめたいが、農地は維持したい	30	8.1%
その他	14	3.8%
無回答	53	14.4%
合計	369	100.0%

問14. 今後の農業経営について (n= 369)

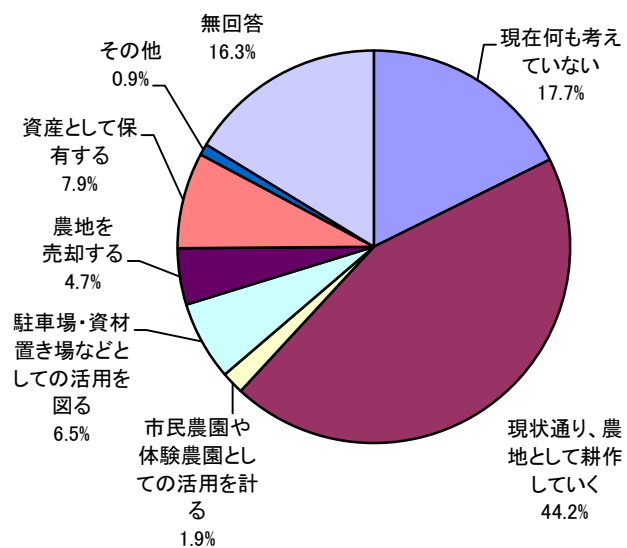


問 15 市街化調整区域内に農地をお持ちの方のみ伺います。今後、市街化調整区域内の農地をどのように活用したいと考えますか？（1つだけ○）

※問6で②市街化調整区域内にお持ちの農地の面積を回答した人のみに質問。

	回答数	比率
現在何も考えていない	38	17.7%
現状通り、農地として耕作していく	95	44.2%
市民農園や体験農園としての活用を計る	4	1.9%
駐車場・資材置き場などとしての活用を図る	14	6.5%
農地を売却する	10	4.7%
資産として保有する	17	7.9%
その他	2	0.9%
無回答	35	16.3%
合計	215	100.0%

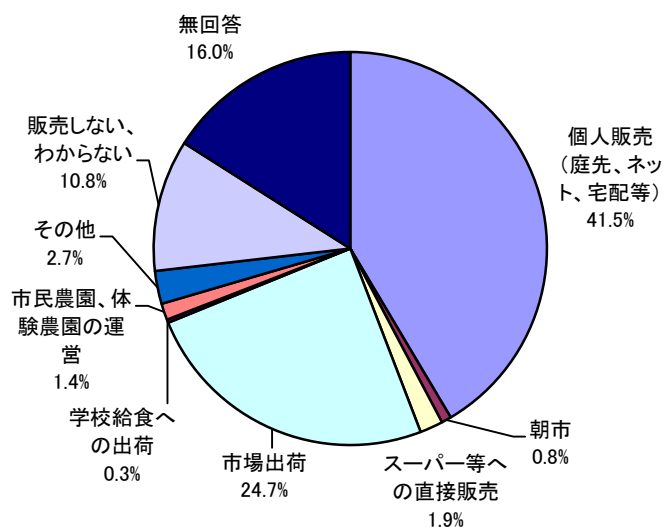
問15. 今後、市街化区域内の農地をどのように活用したいか (n= 217)



問 16 今後の主な販売先（収入源）としてどちらを考えていますか？（1つだけ○）

	回答数	比率
個人販売（庭先、ネット、宅配等）	153	41.5%
朝市	3	0.8%
スーパー等への直接販売	7	1.9%
市場出荷	91	24.7%
学校給食への出荷	1	0.3%
市民農園、体験農園の運営	5	1.4%
その他	10	2.7%
販売しない、わからない	40	10.8%
無回答	59	16.0%
合計	369	100.0%

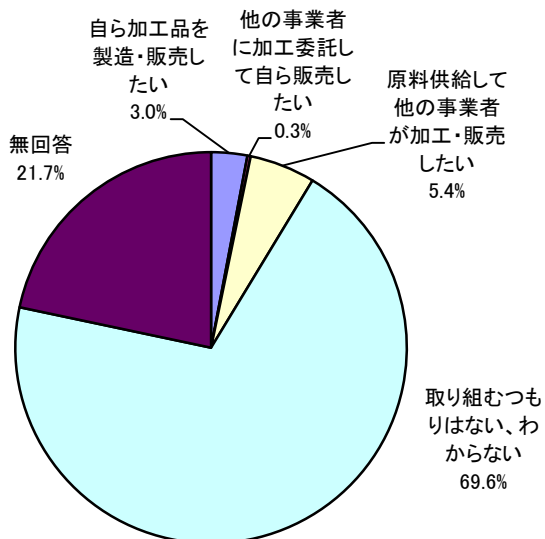
問16. 今後の主な販売先（収入源）としてどちらを考えているか（n= 369）



問 17 今後自分で生産した農産物を使って加工品を製造・販売したいですか？（1つだけ○）

	回答数	比率
自ら加工品を製造・販売したい	11	3.0%
他の事業者に加工委託して自ら販売したい	1	0.3%
原料供給して他の事業者が加工・販売したい	20	5.4%
取り組むつもりはない、わからない	257	69.6%
無回答	80	21.7%
合計	369	100.0%

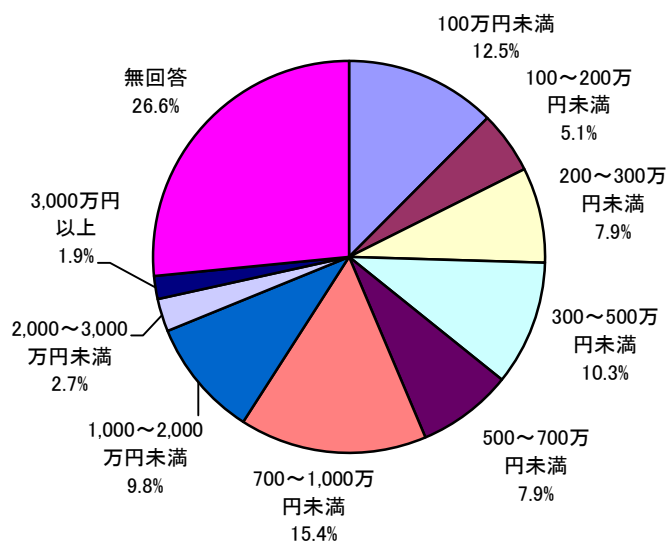
問17. 今後、自分で生産した農産物を使って加工品を製造・販売したいか（n= 369）



問 18 あなたの世帯の、5年後の年間農業販売額はどの程度を目指したいですか？（1つだけ○）

	回答数	比率
100万円未満	46	12.5%
100～200万円未満	19	5.1%
200～300万円未満	29	7.9%
300～500万円未満	38	10.3%
500～700万円未満	29	7.9%
700～1,000万円未満	57	15.4%
1,000～2,000万円未満	36	9.8%
2,000～3,000万円未満	10	2.7%
3,000万円以上	7	1.9%
無回答	98	26.6%
合計	369	100.0%

問18. 世帯の5年後の年間農業販売額はどの程度を目指したいか (n= 369)



### ③クロス集計結果

#### a 農業経営で主になっているもの（問5）

##### 《年齢別》

・70歳未満の年代では「梨栽培を主に」する人の割合が高く、70歳以上では「露地野菜栽培を主に」する人の割合が高くなっています。

##### ×問5. 農業経営で主になっているもの

	n	合計	梨栽培を主に	露地野菜栽培を主に	梨・露地野菜栽培の両方を主に	施設園芸（ビニールハウスなど）を主に	梨・施設園芸の両方を主に	その他	無回答
全体	369	369	151 40.9%	132 35.8%	27 7.3%	15 4.1%	2 0.5%	27 7.3%	15 4.1%
50歳未満	53	53	25 47.2%	16 30.2%	6 11.3%	4 7.5%	0 0.0%	2 3.8%	0 0.0%
50歳代	88	88	40 45.5%	30 34.1%	8 9.1%	4 4.5%	2 2.3%	1 1.1%	3 3.4%
60歳代	134	134	63 47.0%	47 35.1%	8 6.0%	5 3.7%	0 0.0%	9 6.7%	2 1.5%
70歳以上	87	87	23 26.4%	39 44.8%	5 5.7%	2 2.3%	0 0.0%	14 16.1%	4 4.6%

※nは表の左列の項目に該当する人数を表す。

※「全体」の集計結果には、年齢について無回答だった人の回答も含まれている。

※問1で「30歳未満」「30歳代」「40歳代」に回答した人は、それぞれ該当する人数が少なく全体の集計結果との隔たりが大きくなることから、まとめて「50歳未満」としている。

##### 《専業・兼業別》

・専業農家では「梨栽培を主に」する人の割合が高く、兼業農家では「露地野菜栽培を主に」する人の割合が高くなっています。

##### ×問5. 農業経営で主になっているもの

	n	合計	梨栽培を主に	露地野菜栽培を主に	梨・露地野菜栽培の両方を主に	施設園芸（ビニールハウスなど）を主に	梨・施設園芸の両方を主に	その他	無回答
全体	369	369	151 40.9%	132 35.8%	27 7.3%	15 4.1%	2 0.5%	27 7.3%	15 4.1%
専業農家	215	215	109 50.7%	66 30.7%	21 9.8%	10 4.7%	1 0.5%	7 3.3%	1 0.5%
兼業農家	136	136	39 28.7%	61 44.9%	5 3.7%	5 3.7%	0 0.0%	20 14.7%	6 4.4%

※nは表の左列の項目に該当する人数を表す。

※「全体」の集計結果には、専業・兼業について無回答だった人の回答も含まれている。

b 現在の農業での年間販売額（問8）、5年後に目指したい農業での年間販売額（問18）

《年齢別》

- ・現在の農業での年間販売額は、50歳未満では「700～1,000万円未満」と「1,000～2,000万円未満」、50歳代と60歳代では「300～500万円未満」、70歳以上では「100万円未満」の割合がそれぞれもっとも高く、若い年代ほど年間販売額が高い傾向が見られます。
- ・5年後に目指したい農業での年間販売額は、50歳未満では「1,000～2,000万円未満」、50歳代と60歳代では「700～1,000万円未満」の割合がそれぞれもっとも高く、70歳未満の年代は現在より高い年間販売額を目指しています。

×問8. 農業での年間販売額

	n	合計	100万円未満	100～300万円未満	300～500万円未満	500～700万円未満	700～1,000万円未満	1,000～2,000万円未満	2,000～3,000万円未満	3,000万円以上	無回答
全体	369	369	74	53	60	32	48	36	2	1	63
		100.0%	20.1%	14.4%	16.3%	8.7%	13.0%	9.8%	0.5%	0.3%	17.1%
50歳未満	53	53	6	3	8	7	13	13	2	0	1
		100.0%	11.3%	5.7%	15.1%	13.2%	24.5%	24.5%	3.8%	0.0%	1.9%
50歳代	88	88	14	14	16	11	15	9	0	0	9
		100.0%	15.9%	15.9%	18.2%	12.5%	17.0%	10.2%	0.0%	0.0%	10.2%
60歳代	134	134	25	18	26	12	19	13	0	0	21
		100.0%	18.7%	13.4%	19.4%	9.0%	14.2%	9.7%	0.0%	0.0%	15.7%
70歳以上	87	87	29	18	10	2	1	1	0	1	25
		100.0%	33.3%	20.7%	11.5%	2.3%	1.1%	1.1%	0.0%	1.1%	28.7%

×問18. 世帯の5年後の年間農業販売額はどの程度目指したいか

	n	合計	100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～500万円未満	500～700万円未満	700～1,000万円未満	1,000～2,000万円未満	2,000～3,000万円未満	3,000万円以上	無回答
全体	369	369	46	19	29	38	29	57	36	10	7	98
		100.0%	12.5%	5.1%	7.9%	10.3%	7.9%	15.4%	9.8%	2.7%	1.9%	26.6%
50歳未満	53	53	2	1	2	4	8	11	14	3	3	5
		100.0%	3.8%	1.9%	3.8%	7.5%	15.1%	20.8%	26.4%	5.7%	5.7%	9.4%
50歳代	88	88	9	2	11	8	11	22	11	2	1	11
		100.0%	10.2%	2.3%	12.5%	9.1%	12.5%	25.0%	12.5%	2.3%	1.1%	12.5%
60歳代	134	134	17	10	11	20	8	21	11	4	2	30
		100.0%	12.7%	7.5%	8.2%	14.9%	6.0%	15.7%	8.2%	3.0%	1.5%	22.4%
70歳以上	87	87	18	6	5	6	2	3	0	1	1	45
		100.0%	20.7%	6.9%	5.7%	6.9%	2.3%	3.4%	0.0%	1.1%	1.1%	51.7%

※nは表の左列の項目に該当する人数を表す。

※「全体」の集計結果には、年齢について無回答だった人の回答も含まれている。

※問1で「30歳未満」「30歳代」「40歳代」に回答した人は、それぞれ該当する人数が少なく全体の集計結果との隔たりが大きくなることから、まとめて「50歳未満」としている。



### 《専業・兼業別》

- ・現在の農業での年間販売額は、専業農家では「300～500万円未満」、兼業農家では「100万円未満」の割合がそれぞれもっとも高くなっています。
- ・5年後に目指したい農業での年間販売額は、専業農家では「700～1,000万円未満」の割合がもっとも高く、専業農家は現在より高い年間販売額を目指しています。一方、兼業農家は現在と同じく「100万円未満」の割合がもっとも高くなっています。

×問8. 農業での年間販売額

	n	合計	100万円未満	100～300万円未満	300～500万円未満	500～700万円未満	700～1,000万円未満	1,000～2,000万円未満	2,000～3,000万円未満	3,000万円以上	無回答
全体	369	369	74	53	60	32	48	36	2	1	63
		100.0%	20.1%	14.4%	16.3%	8.7%	13.0%	9.8%	0.5%	0.3%	17.1%
専業農家	215	215	17	28	44	26	42	32	2	1	23
		100.0%	7.9%	13.0%	20.5%	12.1%	19.5%	14.9%	0.9%	0.5%	10.7%
兼業農家	136	136	54	24	15	6	6	4	0	0	27
		100.0%	39.7%	17.6%	11.0%	4.4%	4.4%	2.9%	0.0%	0.0%	19.9%

×問18. 世帯の5年後の年間農業販売額はどの程度目指したいか

	n	合計	100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～500万円未満	500～700万円未満	700～1,000万円未満	1,000～2,000万円未満	2,000～3,000万円未満	3,000万円以上	無回答
全体	369	369	46	19	29	38	29	57	36	10	7	98
		100.0%	12.5%	5.1%	7.9%	10.3%	7.9%	15.4%	9.8%	2.7%	1.9%	26.6%
専業農家	215	215	9	6	14	28	21	47	33	8	7	42
		100.0%	4.2%	2.8%	6.5%	13.0%	9.8%	21.9%	15.3%	3.7%	3.3%	19.5%
兼業農家	136	136	34	13	15	9	8	10	3	2	0	42
		100.0%	25.0%	9.6%	11.0%	6.6%	5.9%	7.4%	2.2%	1.5%	0.0%	30.9%

※nは表の左列の項目に該当する人数を表す。

※「全体」の集計結果には、専業・兼業について無回答だった人の回答も含まれている。

《農業経営で主にしている作物別》

- ・現在の農業での年間販売額は、梨栽培を主にする人では「300～500 万円未満」、露地野菜栽培を主にする人では「100 万円未満」の割合がそれぞれもっとも高くなっています。
- ・5年後に目指したい農業での年間販売額は、梨栽培を主にする人では「700～1,000 万円未満」の割合がもっとも高く、梨栽培を主にする人は現在より高い年間販売額を目指しています。一方、露地野菜栽培を主にする人は現在と同じく「100 万円未満」の割合がもっとも高くなっています。

×問8. 農業での年間販売額

	n	合計	100万円未満	100～300万円未満	300～500万円未満	500～700万円未満	700～1,000万円未満	1,000～2,000万円未満	2,000～3,000万円未満	3,000万円以上	無回答
全体	369	369	74	53	60	32	48	36	2	1	63
		100.0%	20.1%	14.4%	16.3%	8.7%	13.0%	9.8%	0.5%	0.3%	17.1%
梨栽培を主に	151	151	10	25	37	19	31	19	1	0	9
		100.0%	6.6%	16.6%	24.5%	12.6%	20.5%	12.6%	0.7%	0.0%	6.0%
露地野菜栽培を主に	132	132	46	22	12	7	9	8	1	0	27
		100.0%	34.8%	16.7%	9.1%	5.3%	6.8%	6.1%	0.8%	0.0%	20.5%

×問18. 世帯の5年後の年間農業販売額はどの程度目指したいか

	n	合計	100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～500万円未満	500～700万円未満	700～1,000万円未満	1,000～2,000万円未満	2,000～3,000万円未満	3,000万円以上	無回答
全体	369	369	46	19	29	38	29	57	36	10	7	98
		100.0%	12.5%	5.1%	7.9%	10.3%	7.9%	15.4%	9.8%	2.7%	1.9%	26.6%
梨栽培を主に	151	151	2	7	12	22	18	36	21	7	1	25
		100.0%	1.3%	4.6%	7.9%	14.6%	11.9%	23.8%	13.9%	4.6%	0.7%	16.6%
露地野菜栽培を主に	132	132	32	9	14	10	7	8	8	2	4	38
		100.0%	24.2%	6.8%	10.6%	7.6%	5.3%	6.1%	6.1%	1.5%	3.0%	28.8%

※nは表の左列の項目に該当する人数を表す。

※「全体」の集計結果には、問5で「梨栽培を主に」「露地野菜栽培を主に」以外の回答をした人及び無回答だった人の回答も含まれている。

c 現在の主な販売先（問10）、今後の主な販売先（問16）

《専業・兼業別》

- ・現在の主な販売先は、専業農家・兼業農家ともに「個人直売」の割合がもっとも高く、次いで「市場出荷」の割合が高くなっています。
- ・今後の主な販売先は、専業農家・兼業農家ともに「個人直売」の割合が高くなっています。次いで専業農家では「市場出荷」、兼業農家では「販売しない、わからない」の割合が高くなっています。「市場出荷」は兼業農家だけでなく専業農家の回答の割合も現在より低くなっています。

×問10. 主な販売先

	n	合計	個人販売 (庭先、ネット、宅配等)	朝市	スーパー等 への 直接販売	市場出荷	学校給食 への出荷	市民農園、 体験農園の 運営	その他	無回答
全体	369	369	151	3	6	114	0	2	33	60
		100.0%	40.9%	0.8%	1.6%	30.9%	0.0%	0.5%	8.9%	16.3%
専業農家	215	215	93	0	5	88	0	1	10	18
		100.0%	43.3%	0.0%	2.3%	40.9%	0.0%	0.5%	4.7%	8.4%
兼業農家	136	136	56	3	1	23	0	1	22	30
		100.0%	41.2%	2.2%	0.7%	16.9%	0.0%	0.7%	16.2%	22.1%

×問16. 今後の主な販売先(収入源)としてどちらを考えているか

	n	合計	個人販売 (庭先、ネット、宅配等)	朝市	スーパー等 への 直接販売	市場出荷	学校給食 への出荷	市民農園、 体験農園の 運営	その他	販売しな い、わか らない	無回答
全体	369	369	153	3	7	91	1	5	10	40	59
		100.0%	41.5%	0.8%	1.9%	24.7%	0.3%	1.4%	2.7%	10.8%	16.0%
専業農家	215	215	98	0	6	72	0	1	5	8	25
		100.0%	45.6%	0.0%	2.8%	33.5%	0.0%	0.5%	2.3%	3.7%	11.6%
兼業農家	136	136	53	3	1	16	1	4	5	28	25
		100.0%	39.0%	2.2%	0.7%	11.8%	0.7%	2.9%	3.7%	20.6%	18.4%

※nは表の左列の項目に該当する人数を表す。

※「全体」の集計結果には、専業・兼業について無回答だった人の回答も含まれている。

《農業経営で主にしている作物別》

- ・現在の主な販売先は、梨栽培を主にする人では「個人直売」、露地野菜栽培を主にする人では「市場出荷」の割合が高くなっています。
- ・今後の主な販売先は、現在の主な販売先と同じく、梨栽培を主にする人では「個人直売」、露地野菜栽培を主にする人では「市場出荷」の割合が高くなっています。ただし、梨栽培を主にする人で「個人直売」を考える人の割合は、現在の割合より高くなっています。一方、露地野菜栽培を主にする人で「市場出荷」を考える人の割合は、現在の割合より低くなっています。

×問10. 主な販売先

	n	合計	個人販売 (庭先、ネット、宅配等)	朝市	スーパー等 への 直接販売	市場出荷	学校給食 への出荷	市民農園、 体験農園の 運営	その他	無回答
全体	369	369	151 40.9%	3 0.8%	6 1.6%	114 30.9%	0 0.0%	2 0.5%	33 8.9%	60 16.3%
梨栽培を主に	151	151	99 65.6%	0 0.0%	1 0.7%	37 24.5%	0 0.0%	0 0.0%	7 4.6%	7 4.6%
露地野菜栽培を主に	132	132	31 23.5%	3 2.3%	3 2.3%	54 40.9%	0 0.0%	2 1.5%	13 9.8%	26 19.7%

×問16. 今後の主な販売先(収入源)としてどちらを考えているか

	n	合計	個人販売 (庭先、ネット、宅配等)	朝市	スーパー等 への 直接販売	市場出荷	学校給食 への出荷	市民農園、 体験農園の 運営	その他	販売しな い、わか らない	無回答
全体	369	369	153 41.5%	3 0.8%	7 1.9%	91 24.7%	1 0.3%	5 1.4%	10 2.7%	40 10.8%	59 16.0%
梨栽培を主に	151	151	106 70.2%	0 0.0%	1 0.7%	26 17.2%	0 0.0%	0 0.0%	2 1.3%	4 2.6%	12 7.9%
露地野菜栽培を主に	132	132	27 20.5%	3 2.3%	2 1.5%	45 34.1%	0 0.0%	4 3.0%	4 3.0%	28 21.2%	19 14.4%

※ n は表の左列の項目に該当する人数を表す。

※ 「全体」の集計結果には、問5で「梨栽培を主に」「露地野菜栽培を主に」以外の回答をした人及び無回答だった人の回答も含まれている。

《現在の販売金額別》

- ・現在の主な販売先は、100万円未満と500万円以上の農家では「個人直売」、100～500万円未満の農家では「市場出荷」の割合がそれぞれもっとも高くなっています。
- ・今後の主な販売先は、100万円未満の農家では「販売しない・わからない」、100～300万円未満の農家では同率で「個人直売」「市場出荷」、300万円以上の農家では「個人直売」の割合がそれぞれもっとも高くなっており、全体的に今後「個人直売」を考える人の割合が高くなっています。

×問10. 主な販売先

	n	合計	個人販売 (庭先、ネット、宅配等)	朝市	スーパー等 への 直接販売	市場出荷	学校給食 への出荷	市民農園、 体験農園の 運営	その他	無回答
全体	369	369	151	3	6	114	0	2	33	60
		100.0%	40.9%	0.8%	1.6%	30.9%	0.0%	0.5%	8.9%	16.3%
100万円未満	74	74	30	2	2	15	0	1	16	8
		100.0%	40.5%	2.7%	2.7%	20.3%	0.0%	1.4%	21.6%	10.8%
100～300万円未満	53	53	19	1	0	28	0	1	3	1
		100.0%	35.8%	1.9%	0.0%	52.8%	0.0%	1.9%	5.7%	1.9%
300～500万円未満	60	60	23	0	2	30	0	0	4	1
		100.0%	38.3%	0.0%	3.3%	50.0%	0.0%	0.0%	6.7%	1.7%
500～700万円未満	32	32	18	0	0	13	0	0	1	0
		100.0%	56.3%	0.0%	0.0%	40.6%	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%
700～1,000万円未満	48	48	31	0	1	13	0	0	3	0
		100.0%	64.6%	0.0%	2.1%	27.1%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%
1,000万円以上	39	39	23	0	1	13	0	0	2	0
		100.0%	59.0%	0.0%	2.6%	33.3%	0.0%	0.0%	5.1%	0.0%

×問16. 今後の主な販売先(収入源)としてどちらを考えているか

	n	合計	個人販売 (庭先、ネット、宅配等)	朝市	スーパー等 への 直接販売	市場出荷	学校給食 への出荷	市民農園、 体験農園の 運営	その他	販売しな い、わか らない	無回答
全体	369	369	153	3	7	91	1	5	10	40	59
		100.0%	41.5%	0.8%	1.9%	24.7%	0.3%	1.4%	2.7%	10.8%	16.0%
100万円未満	74	74	18	2	1	13	0	2	2	21	15
		100.0%	24.3%	2.7%	1.4%	17.6%	0.0%	2.7%	2.7%	28.4%	20.3%
100～300万円未満	53	53	22	1	0	22	0	2	1	1	4
		100.0%	41.5%	1.9%	0.0%	41.5%	0.0%	3.8%	1.9%	1.9%	7.5%
300～500万円未満	60	60	26	0	1	22	0	0	2	2	7
		100.0%	43.3%	0.0%	1.7%	36.7%	0.0%	0.0%	3.3%	3.3%	11.7%
500～700万円未満	32	32	21	0	2	4	0	0	0	1	4
		100.0%	65.6%	0.0%	6.3%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	3.1%	12.5%
700～1,000万円未満	48	48	32	0	1	11	0	0	1	1	2
		100.0%	66.7%	0.0%	2.1%	22.9%	0.0%	0.0%	2.1%	2.1%	4.2%
1,000万円以上	39	39	22	0	2	11	0	0	2	0	2
		100.0%	56.4%	0.0%	5.1%	28.2%	0.0%	0.0%	5.1%	0.0%	5.1%

※nは表の左列の項目に該当する人数を表す。

※「全体」の集計結果には、現在の販売金額について無回答だった人の回答も含まれている。

※問8で「2,000～3,000万円未満」「3,000万円以上」に回答した人は、それぞれ該当する人数が少なく全体の集計結果との隔たりが大きくなることから、「1,000～2,000万円未満」とまとめて集計し「1,000万円以上」としている。

d 後継者の有無（問13）、今後の農業経営についての考え（問14）

《専業・兼業別》

- ・後継者の有無は、専業農家では「いる」、兼業農家では「いない」の割合がそれぞれもっとも高くなっています。
- ・今後の農業経営については、専業農家・兼業農家ともに「現状の規模を維持しながら、農業を続けたい」の割合がもっとも高くなっています。次いで専業農家では「規模を縮小して、農業を続けたい」、兼業農家では「農業経営はやめたいが、農地は維持したい」の割合が高くなっています。

×問13. 農業経営を引き継ぐ後継者はいるか

	n	合計	いる	いない	現段階ではわからない	無回答
全体	369	369 100.0%	106 28.7%	143 38.8%	86 23.3%	34 9.2%
専業農家	215	215 100.0%	79 36.7%	75 34.9%	53 24.7%	8 3.7%
兼業農家	136	136 100.0%	25 18.4%	62 45.6%	33 24.3%	16 11.8%

×問14. 今後の農業経営について

	n	合計	農地を借りて規模を拡大したい	現状の規模を維持しながら、農業を続けたい	規模を縮小して、農業を続けたい	農業経営をやめて、農地を貸したい	農業経営はやめたいが、農地は維持したい	その他	無回答
全体	369	369 100.0%	7 1.9%	193 52.3%	51 13.8%	21 5.7%	30 8.1%	14 3.8%	53 14.4%
専業農家	215	215 100.0%	6 2.8%	125 58.1%	40 18.6%	11 5.1%	8 3.7%	6 2.8%	19 8.8%
兼業農家	136	136 100.0%	1 0.7%	62 45.6%	11 8.1%	9 6.6%	19 14.0%	8 5.9%	26 19.1%

※nは表の左列の項目に該当する人数を表す。

※「全体」の集計結果には、専業・兼業について無回答だった人の回答も含まれている。

《農業経営で主にしている作物別》

- ・後継者の有無は、梨栽培を主にしている人では「いる」、露地野菜栽培を主にしている人では「いない」の割合がそれぞれもっとも高くなっています。
- ・今後の農業経営については、ともに「現状の規模を維持しながら、農業を続けたい」の割合がもっとも高くなっています。次いで梨栽培を主にしている人では「規模を縮小して、農業を続けたい」、露地野菜栽培を主にしている人では「農業経営はやめたいが、農地は維持したい」の割合が高くなっています。

×問13. 農業経営を引き継ぐ後継者はいるか

	n	合計	いる	いない	現段階ではわからない	無回答
全体	369	369	106	143	86	34
		100.0%	28.7%	38.8%	23.3%	9.2%
梨栽培を主に	151	151	57	46	41	7
		100.0%	37.7%	30.5%	27.2%	4.6%
露地野菜栽培を主に	132	132	32	65	22	13
		100.0%	24.2%	49.2%	16.7%	9.8%

×問14. 今後の農業経営について

	n	合計	農地を借りて規模を拡大したい	現状の規模を維持しながら、農業を続けたい	規模を縮小して、農業を続けたい	農業経営をやめて、農地を貸したい	農業経営はやめたいが、農地は維持したい	その他	無回答
全体	369	369	7	193	51	21	30	14	53
		100.0%	1.9%	52.3%	13.8%	5.7%	8.1%	3.8%	14.4%
梨栽培を主に	151	151	3	95	27	6	7	2	11
		100.0%	2.0%	62.9%	17.9%	4.0%	4.6%	1.3%	7.3%
露地野菜栽培を主に	132	132	4	55	17	11	18	4	23
		100.0%	3.0%	41.7%	12.9%	8.3%	13.6%	3.0%	17.4%

※ n は表の左列の項目に該当する人数を表す。

※ 「全体」の集計結果には、問 5 で「梨栽培を主に」「露地野菜栽培を主に」以外の回答をした人及び無回答だった人の回答も含まれている。

《現在の販売金額別》

- ・後継者の有無は、700万円未満の農家では「いない」、700万円以上の農家では「いる」の割合がそれぞれもっとも高くなっています。
- ・今後の農業経営については、現在の販売金額に関係なく「現状の規模を維持しながら、農業を続けたい」の割合がもっとも高くなっています。また、販売金額が高くなるにつれて「農業経営をやめて、農地を貸したい」及び「農業経営はやめたいが、農地は維持したい」の割合が低くなっています。

×問13. 農業経営を引き継ぐ後継者はいるか

	n	合計	いる	いない	現段階ではわからない	無回答
全体	369	369 100.0%	106 28.7%	143 38.8%	86 23.3%	34 9.2%
100万円未満	74	74 100.0%	12 16.2%	39 52.7%	17 23.0%	6 8.1%
100～300万円未満	53	53 100.0%	12 22.6%	25 47.2%	13 24.5%	3 5.7%
300～500万円未満	60	60 100.0%	18 30.0%	23 38.3%	15 25.0%	4 6.7%
500～700万円未満	32	32 100.0%	10 31.3%	13 40.6%	8 25.0%	1 3.1%
700～1,000万円未満	48	48 100.0%	18 37.5%	13 27.1%	15 31.3%	2 4.2%
1,000万円以上	39	39 100.0%	26 66.7%	5 12.8%	7 17.9%	1 2.6%

×問14. 今後の農業経営について

	n	合計	農地を借りて規模を拡大したい	現状の規模を維持しながら、農業を続けたい	規模を縮小して、農業を続けたい	農業経営をやめて、農地を貸したい	農業経営はやめたいが、農地は維持したい	その他	無回答
全体	369	369 100.0%	7 1.9%	193 52.3%	51 13.8%	21 5.7%	30 8.1%	14 3.8%	53 14.4%
100万円未満	74	74 100.0%	0 0.0%	26 35.1%	6 8.1%	11 14.9%	15 20.3%	5 6.8%	11 14.9%
100～300万円未満	53	53 100.0%	0 0.0%	31 58.5%	8 15.1%	3 5.7%	7 13.2%	1 1.9%	3 5.7%
300～500万円未満	60	60 100.0%	3 5.0%	35 58.3%	12 20.0%	2 3.3%	2 3.3%	1 1.7%	5 8.3%
500～700万円未満	32	32 100.0%	1 3.1%	21 65.6%	6 18.8%	0 0.0%	1 3.1%	0 0.0%	3 9.4%
700～1,000万円未満	48	48 100.0%	0 0.0%	31 64.6%	10 20.8%	1 2.1%	1 2.1%	3 6.3%	2 4.2%
1,000万円以上	39	39 100.0%	3 7.7%	29 74.4%	5 12.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.6%	1 2.6%

※nは表の左列の項目に該当する人数を表す。

※「全体」の集計結果には、現在の販売金額について無回答だった人の回答も含まれている。

※問8で「2,000～3,000万円未満」「3,000万円以上」に回答した人は、それぞれ該当する人数が少なく全体の集計結果との隔たりが大きくなることから、「1,000～2,000万円未満」とまとめて集計し「1,000万円以上」としている。



#### ④自由意見

問 19 鎌ケ谷市の農業振興に向けて、ご意見・アイデアなどがありましたらご記入下さい。

##### 《農業振興に向けたアイデア》

- 鎌ケ谷市の野菜はこれだという 1 つを選んで多くの農家が作付をし、全国に特産品として PR をできるものを作るべき。
- 出荷用の箱にかまたんを利用してはどうか。
- 直売所で加工品を販売するための講習などをしてほしい。できれば販売許可が取得できるまで指導していただけると直売の販売促進につながり活性化されると思います。
- 農業を続けられる環境を作ってほしい。住宅地が増えるとやりにくくなる。全国にもっと鎌ケ谷の梨をアピールするようにしてもらいたい。(千葉県内ですら、鎌ケ谷の認知度が低い)
- 援農ボランティアをもっと増やして、野菜農家への派遣もしてもらいたい。農機のレンタルなどあればいいと思う。
- 不要な団体の整理をしてみてもいい。このまま農業従事者が減る中で何かあるたびに団体を作っているのは本業の仕事をする時間はどんどんなくなってしまうのでは。

##### 《剪定枝の処理についての意見》

- 剪定枝の処理施設を早急に作って欲しい。
- 剪定枝の畑での焼却について、一般と警察関係者に幅広く周知させてほしい。
- 焼却処理が困難なので剪定枝のリサイクルを続けてほしい。
- 剪定枝焼却を許可してください。

##### 《住民の農業への理解についての意見》

- 現実的に鎌ケ谷の場合、地域によっては住宅地で苦情が多く、肥料そのものが使えない場合があり露地栽培が難しい。地域によっては生産が難しくなっています。鎌ケ谷市の農協もこまめに小さい農家に協力してもらいたい。風が吹くと埃が立つから水をまいてくれ、生の肥料を使うと臭うという苦情が多い。
- 市民の人達に農業のこと(仕事内容、農薬のことなど)をもっと知っていただきたい。
- 新規の住人、近所に対する市からの説明、やりとりがないと農家は減る一方だと思う。

##### 《農業を続けることへの不安についての意見》

- 職業として不安定すぎる。このままだと後継者はいなくなる。後継者がいても不安定過ぎて家庭が成り立たなくなる。後継者が育たないようでは抜本的な改革が必要なのではないだろうか。
- 梨の今後が不安(薬・枝の問題)。
- 現状(高齢化社会)を考えると農業の振興うんぬんの時代でないと思う。
- 近年、農産物の市場における下落、個人販売の減少では希望が持てず農業は出来そうな

い（農材具一つ買えない）。

- 周辺の環境が変化してきたため、農作業がしにくくなってきています。そんな中でも続けて所得増を目指していますが、何かと不安がつきまといます。ご協力お願いいたします。
- 鎌ヶ谷市農家もサラリーマン化した後継者が増え、高齢化した耕作者が増えている。行政としては農業振興として調整区域を有効活用できるよう考えてほしい。周辺を見ても雑地が年々増えている。真剣に考えていかないと農家の将来はない。例えば倉庫会社とか駐車場会社を、行政が仲介に入って紹介していくと農家も安心して参加でき、役所も税収の増加が見込まれるでしょう。まだまだ、意見はたくさんあるが書ききれないのでこの辺で終わりとする。
- 徹底したベッドタウン化都市を基本的に指向すべきだ。将来は露地栽培からハウス栽培へ転換させる。また、山林開発を図り住宅化を推進する（梨の将来性はない）。北部、中部地区は住宅地化、商業地化とし南部地区は田園都市とする。環境整備の一環として山林の倒木、下草の放置やゴミの不法投棄を防止する。場合によっては行政の代執行等によって山林の美化を保つ。従わない者には過料を課すなどの措置を講ずる。ボランティア的な高齢者による「環境整備指導員」を設置するのも良し。

#### 《行政に対する意見》

- 行政と農業委員はもっと積極的に農業問題に介入し、問題解決に向け、努力、尽力する必要がある。
- これからの農業経営には、農薬の散布肥料のにおい等の環境問題に、農業振興課の協力が必要です。
- 農家の味方であって欲しい。アンケート結果が欲しい。

#### 《その他意見》

- 今、世界中がおかしいので私はなるべく農業の土地は農地で残しておいた方が良いと思っている。他の国では農業ができないような異常気象が続いたりして、食糧が作れないところもある。（なるべく農地を保全した方がいいと思っている）
- 日本のお国柄や文化を大事にして如何に日本の国を守っていかなくてはいけないかの方が大事です。今の国のあり方を考えてから農業でも自分達の仕事でも考えていかなくてはならない時期が今の日本の現状を見ると来ているのではないかと思います。私から見ると鎌ヶ谷市は市長をはじめ市の職員ももっと真剣に危機感を持った方がいいと思います。
- シルバーケアのようなことをやってみたい
- 農地を所有しているだけで実質的な生産活動をしておりません。
- 5年後の農業販売額は目指していません。
- 農業経営者又は世帯主であっても農地所有者ではない場合、アンケートに答えられない。

(4) 鎌ヶ谷市みどりあふれる都市農業創造プラン策定委員名簿

■策定委員			
選出区分		職名等	氏名
第1号委員	学識経験者	東京農工大学名誉教授	淵野 雄二郎
第2号委員	行政(県)	東葛飾農業事務所代表	橋野 康治
第3号委員	農業関係者	鎌ヶ谷市農業委員会代表	◎ 鈴木 幹男
		とうかつ中央農業協同組合代表	皆川 隆
		鎌ヶ谷市農業士等協会代表	○ 鈴木 徳市
		鎌ヶ谷市梨業組合代表	石井 君雄
		野菜農家代表	山田 芳裕
		家畜農家代表	鈴木 利一
		施設園芸農家代表	大野 和良
		鎌ヶ谷市観光農業組合代表	高橋 勇
		鎌ヶ谷市農業青少年クラブ代表	秦野 恭嘉
第4号委員	消費者	消費者代表	古志 淳子
第5号委員	行政(市)	鎌ヶ谷市市民生活部長	稲生 哲彌
◎は 委員長      ○は 副委員長			
■事務局			
所属部所属課		職名	氏名
市民生活部	農業振興課	課長	吉野 光雄
		係長	皆川 学
		主査	大野 和一
		主事補	石川 純也
株式会社	流通研究所	主任研究員	有山 公崇
		研究員	中村 慎吾

## (5) 用語解説

### ◇認定農業者制度 (P29)

意欲的な農業者から自主的に申請された農業経営改善計画（規模拡大の合理化、経営管理の合理化等の目標を内容とする）を、市町村が地域農業の指針である基本構想に照らして認定し、地域農業の担い手としてその経営改善を積極的に支援し、効率的かつ安定的な経営体を育成していこうとする制度。

### ◇家族経営協定 (P29)

農業経営に携わる家族員間で給与や休日等の就業条件、役割分担等について話し合い取り決めたもの。

### ◇農業青少年クラブ（4Hクラブ） (P29)

概ね 30 歳までの青年農業者で、農業等に関する課題を解決するため自主的に活動する組織。通称 4Hクラブ。

### ◇農業士 (P29)

農業技術・経営管理能力に優れ農業青年の指導を行う指導農業士と、青年農業者活動に積極的で自ら地域農業の推進者をめざす農業者を指し、千葉県知事が認証するもの。

### ◇かまがや朝市 (P30)

毎週土曜日、市役所の駐車場で開かれている朝市。鎌ヶ谷市の農家から成る「鎌ヶ谷朝市組合」によって催されており、地元の農家で収穫した新鮮な朝採り野菜を買えることから、開店前から市民が並ぶほど人気があります。

5月～10月の間は朝7時から8時まで、11月～4月の間は朝8時から9時の営業時間となっています。

### ◇鎌ヶ谷市農産物ブランド化推進協議会 (P31)

市内で生産された農産物の販路拡大及び安定供給を図るとともに、効率的かつ安定的な農業経営基盤の強化に資すること、また鎌ヶ谷産農産物の高付加価値化の推進を図ることを目的に設置しています。

### ◇ゆるキャラ (P31)

「ゆるいキャラクター」の略。地方自治体や町おこしイベントなどのご当地マスコットキャラクターを指すことが多いです。緊張感が無く、のんびりとした雰囲気を漂わせていることからこう呼ばれていますが、それが「かわいい、癒される」と人気を呼び、ブームを巻き起こしています。滋賀県彦根市の「ひこにゃん」、奈良県の「せんとくん」などが有名で、鎌ヶ谷市においても鎌ヶ谷産農産物ブランド化ロゴマークを基調とし

たマスコットキャラクター（愛称「かまたん」）を作成しています。

#### ◇6次産業化（P33）

農林水産業や農山漁村の再生・活性化を図っていくために、農林漁業者が、農林水産物の生産（1次産業）だけでなく、食品加工（2次産業）、流通・販売（3次産業）にも主体的に取り組むことによって、新たな付加価値を生み出し、儲かる農林水産業を実現し、農山漁村の雇用確保と所得向上を目指す取組のことであります。

#### ◇農商工連携（P33）

農林漁業者と商工業者等が通常の商取引関係を超えて協力し、お互いの強みを活かして売れる新商品・新サービスの開発・生産等を行い、需要の開拓を行うことです。

#### ◇環境保全型農業（P34）

農業の持つ物質循環機能を生かし、生産性との調和などに留意しつつ、土づくり等を通じて化学肥料、農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業（「環境保全型農業の基本的な考え方」平成6年、農林水産省より）。食料・農業・農村基本法においても、国全体として適切な農業生産活動を通じて国土・環境保全に資するという観点から、環境保全型農業の確立を目指しています。

#### ◇エコファーマー（P34）

平成11年に制定された「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律（持続農業法）」第4条に基づき、「持続性の高い農業生産方式の導入に関する計画」を都道府県知事に提出して、当該導入計画が適当である旨の認定を受けた農業者（認定農業者）の愛称名。エコファーマーになると、認定を受けた導入計画に基づき、農業改良資金（環境保全型農業導入資金）や税制上の特例措置が受けられます。

#### ◇ちばエコ農業推進事業（P34）

千葉県が平成14年度から実施している事業。産地指定と農産物認証を併せて行うことにより、環境の保全、栽培方法の保証、「ちばエコ農産物」の安定供給などを一体的に進めるとともに、栽培履歴等生産情報の提供（トレーサビリティの確立）に努め、消費者の安全・安心な農産物の需要に応えることを目的とした事業。

減農薬・減化学肥料栽培に取り組み、要件を満たす産地を県が指定する「ちばエコ農業産地」指定制度と、指定産地等で生産され、要件を満たす農産物を県が認証する「ちばエコ農産物」認証制度の2つの事業からなります。

#### ◇主業農家・準主業農家（P48）

主業農家とは、農業所得が主（農家所得の50%以上が農業所得）で、1年間に60日以上自営農業に従事している65歳未満の世帯員がいる農家をいい、準主業農家とは、農外所得が主（農家所得の50%未満が農業所得）の農家をいう。